

IFKS 会報第 25 号

IFKS Newsletter No.25

IFKS



International Friedrich Kuhlau Society

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会

目次 / Contents

理事長ご挨拶 / 石原 利矩

Greeting to IFKS Members / Toshinori Ishihara 4

ヨーアン・エーリクセン著

KUH LAU OG KLAVERET / クーラウとピアノ 翻訳 石原 利矩 6

「Kuhlau のアンサンブル曲をフルート二重奏で」 / Paul Wagner 編曲 22

会員の声 (定期演奏会出演者インタビュー) 42

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会決算書 45

隠れた名曲をフルートで 「人魚の涙」 曲集 巻別索引 46

シリックス社の出版物 48

IFKS 出版のピアノ曲 50

フリードリヒ・クーラウ協会規約 52

会員名簿 53

編集後記 54

理事長ご挨拶



IFKS 理事長：石原 利矩

この何年間か、新型コロナのパンデミックによって私たちの日常生活が大きく影響を受けることになりました。

しかし、その騒ぎも一先ず収まり、新しい生活を取り戻そうと私たちは努力しているところです。

音楽界も他の分野と同様に活動が制限されました。IFKSも第3回フェスティバルがキャンセルとなりクーラウのピアノ・コンクールも挫折してしまいました。そんな状況の中で、クーラウを取り囲む状況もいろいろ変化がありました。会長のブスク氏も車椅子生活となり、エーリクセン氏も認知症（奥様の言によると朦朧としている）となり、シリクス社のドンボワ教授もお亡くなりになり、また強力な理事の一人の小島氏が病気のため逝去され、不肖、事務長の石原も2度の肺がんの手術をして転移なしの結果を得て細々と生きており、今や世代の交代の時期となった感があります。

それにつきまして今後IFKSの活動をどのように進めたら良いか、理事を中心に相談して参りましたが、なかなか良い方策が見つからず今日に至っています。

そんなわけで今後、今までと同じようにIFKSの定期演奏会も行うことが難しいと思われ、紙面での会報の発送も難

Greeting to IFKS Members

Toshinori Ishihara : Administrative Director

Over the past few years, our daily lives have been greatly affected by the COVID-19 pandemic.

However, now that the turmoil has subsided, we are making efforts to get back to a new way of life. The music world, like others, was restricted in its activities. The 3rd IFKS festival was canceled, as well as the Kuhlau Piano Competition.

Due to this situation, the circumstances surrounding Kuhlau also underwent various changes. Chairman Busk is now in a wheelchair, Mr. Erichsen has dementia (his wife says he is always hazy), Professor Donbois of Syrinx has passed away, and one of our powerful directors, Mr. Kojima, has also passed away due to illness. Our Secretary-General, Mr. Ishihara, underwent two surgeries for lung cancer with no signs of metastasis and is living a modest life, so it feels like the time has come for a change of generations.

We have been discussing, mainly among the board of directors, how we should proceed with IFKS activities in the future, but we have not yet been able to come up with a good solution.

For these reasons, we have decided that it will be difficult to hold regular IFKS concerts as we have done in the past, and that it will also be difficult to send out printed newsletters.

Therefore, from now on, we will continue our activities online. As such, this will be the last printed issue of the newsletter.

The next chapter of Mr. Imoto's article on Beimfohr was to be published in this issue, but due to his illness, it became clear that he would not be able to complete the manuscript in time.

しいと判断いたしました。そこで今後の活動は Web 上で進めることにいたします。

ですから冊子としてお送りする会報は今季が最後です。今回の会報には井本氏のバウムフォールの続きを掲載することになっていましたが、氏の体調がすぐれず、原稿が間に合わないことが判明し、急遽以前エーリクセン氏からいただいた「クーラウとピアノ」と題する小雑誌を翻訳して掲載することになりました。バウムフォールのその後の論文は IFKS ホームページでお読みいただくようにする予定です。

クーラウ研究の今後はホームページを中心に行うとお考えください。会員限定のページも増やします。

今までは年会費を 5,000 円頂いておりましたが、今期から年会費を 2,000 円とすることにいたしました。今季の会費のお支払いいただいた方は会員を継続すると考えさせていただきます。また今年で退会される方は振り込み用紙にその旨をお書きください。会員を続けてくださる方には、今後の IFKS ホームページ（目下リニューアル中）の詳細を追ってお知らせします。

それでは皆様、これからもクーラウのことにご注目ください。

今期で退会される方は、長い間ご愛顧ありがとうございました。

お元気でお過ごしください。

理事長：石原利矩（次期から理事の役職が変わります）

So we have decided to translate and publish a small magazine entitled "Kuhlau and the Piano" that we had received from Mr. Erichsen some time ago. The next chapter of Beimfohr's article will be available on the IFKS web site.

Please consider that future Kuhlau research will be centered on the website. We will also increase the number of member-only pages.

Until now, the annual membership fee was 5,000 yen, but starting this term, we have decided to reduce it to 2,000 yen.

Those who pay their membership fees for this term will be considered to continue as members. Also, if you are canceling your membership this year, please write that on your transfer slip. For those who will continue as members, we will inform you of the details of the future IFKS website (currently being renewed) in due course.

Please continue to pay attention to Kuhlau, and to those who will be leaving IFKS this term, thank you for your long-term patronage.

Please stay well!

Chairman: Toshinori Ishihara (the position of the director will change from the next term)

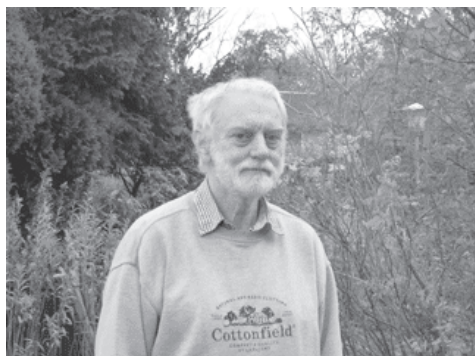
(Translation: Kyoko Ueno)

今季の会報に掲載されたヨーアン・エーリクセン氏の「クーラウとピアノ」の小冊子はデンマークの Esbjerg エスビアウ市の音楽院 / 演劇学校から PubliMus という名称の定期刊行物の一つとして 2012 年 9 月に出版されました。思い返せば丁度、IFKS がピアノ曲集全集を出版する時期と重なっていました。エーリクセン氏のクーラウ伝記「フリードリヒ・クーラウ / コペンハーゲンのドイツ人の音楽家」は 2011 年ユルツェン市の協賛を得てドイツ語で Olms 社から出版されました。その後 IFKS から翻訳出版の計画が持ち上がり、エーリクセン氏は再度デンマーク語で書き直すことを約束し、デンマークに住む日本人の翻訳者にもお会いして依頼しました。しかし、残念なことにエーリクセン氏は膨大な仕事になることを懸念して諦めることとなりました。

この著作を読んで氏のクーラウに対する愛着をひしひしと感ずります。氏の回復を心より願っています。(石原利矩)



エーリクセン氏と一緒に、デンマークのフレゼリック城にて、
2013 年 9 月 27 日撮影



クーラウとピアノ

2011 年 Jørgen Erichsen ヨーアン・エーリクセンは作曲家フリードリヒ・クーラウ (1786-1832) の史上初の重要な伝記を出版しました。クーラウは北ドイツで生まれましたが、実り豊かな人生のほとんどをコペンハーゲンで過ごしたので、私たちは彼をあえて私たちの仲間の一人に数えたくなくなります。クーラウの広範な作品はさまざまなジャンルに及ぶため、彼は「フルートのベートーヴェン」と形容する人もいます。クーラウは私たちの時代までほとんどのピアノ教室で取り上げられており、ほとんどの人がクーラウを知っています。しかし、ソナチネにはそれで十分です。エーリクセン氏、自身がそれを表現しているように、それは、ベートーヴェンのピアノ曲で『エリーゼの為に』以外に知らないという事実にほぼ一致します。そこで私たちはエーリクセンに対し、クーラウのピアノ曲に関する記事でこの誤解を正すよう依頼しました。クーラウの主要なピアノ・ソナタの全集が現在出版されようという事実によって、この記事はさらに最新のものとなっています。この出版物については、あとがきで簡単に説明します。

カール・エリック・キュール

前言

クーラウという名前が主にいくつかの弾きやすい小さなソナチネと関連付けられていた何年も前に遡る訳ではありませんが、少なくとも過去においては、多くのピアノ奏者がソナタ形式を初めて知ったのはクーラウのソナチネでした。幸いなことに、事情は変わりました。クーラウの作品については大勢のピアニストに徐々に知られるようになり、そのいくつかは今では優れた録音で入手可能です。しかし、クーラウの名前を広く知らしめたのは、おそらく何よりもフルート奏者たちでしょう。1本、2本、3本、4本のフルート、フルートと弦楽のための3つの五重奏曲、およびフルートとピアノのための彼の80を超える作品は、この楽器のために書かれた最高の作品のいくつかとして世界中のフルート奏者によって注目されています。そしてこれに関連して、クーラウは「フルートのベートーヴェン」というニックネームで呼ばれています。彼の劇場音楽を復活させる試みも行われており、有名な『妖精の丘』に加えて、多くのオペラや歌劇が含まれています。しかし、音楽の質の高さは否定できないにもかかわらず、演劇的でない歌詞が「復活」の邪魔をしていることを認識しなければなりません。しかし、クーラウの550以上の作品のうち広く知られているのはほんの一部にすぎません。このうちピアノ作品がほぼ半数を占めており、本書ではピアノ作品について取り上げます。しかし、この著作で設定された枠組みの中で、それらすべてに言及することは不可能です。ピアノ独奏曲を中心に紹介し、最終章では他の作品についても簡単に述べます(脚註1)。



フリードリヒ・クーラウ (1786-1832) は、ドイツ北部の小さな町ユルツェンで軍楽隊の息子として生まれました。ピアニスト兼作曲家としての前途有望なキャリアは、ナポレオン戦争によって突然中断されました。当初はコペンハーゲンでの一時的な「亡命滞在」に過ぎなかったのですが、その後は永久滞在となり、周知のように、クーラウはデンマーク黄金時代の音楽界を代表する人物の一人となりました。しかし、彼の550以上の作品のうち、今日広く知られているのは消え去った残りの部分だけです。しかし、その中には、特にこの著作で扱うピアノ作品の中には、大きく永続的な価値のある作品があります。リトグラフ作家のエミリウス・ベーレンツェンが描いたこの肖像画は、クーラウの正面を見せた唯一の肖像画であり、他のすべての絵は、幼い頃に事故で失った右目を隠そうとしています。

クーラウがピアニストとして注目を集めたのは、1810年末、ナポレオン軍に占領されていたハンブルクから逃亡後、初めてコペンハーゲンに現れた時でした。1月中旬、コペンハーゲンの新聞で次のような記事を読むことができます。「国王のご厚意により、ハンブルク出身のピアニスト・クーラウ氏が、1月23日の水曜日の夕方7時に、王立劇場にて次の内容の大規模な声楽および器楽のコンサートを開催します」-そして、内容には以下が含まれます。「クーラウ氏作曲・演奏のフォルテピアノ協奏曲」と、5つの楽章からなる作品「クーラウ氏作曲・演奏の「海の嵐」音楽絵画」。前者は有名なピアノ協奏曲ハ長調と同じものですが、後者は今日知られていないので、クーラウもおそらくそれを取り上げてもらいありがたかったでしょう。

クーラウは当時 24 歳。数年前、彼は当時最高の教師の一人、すなわち C. F. G. シュヴェンケ (1762-1822) のもとで音楽教育を終えていました。ハンブルクの 5 つの主要な教会の音楽監督として C. Ph. エマヌエル・バッハの後継者であり、彼 (訳者註：シュヴェンケ) 自身も J. S. バッハの有名な息子 (訳者註：エマヌエル・バッハのこと) の生徒です。クーラウはシュヴェンケから「通奏低音」(今日私たちが和声学と呼ぶものを指す当時の用語) と作曲のレッスンを受け、1809 年にそのレッスンが終了したとき、シュヴェンケは弟子について次のように述べました。彼は音楽を感じる心と音楽を理解できる才能の両者を兼ね備えて根本的な音楽家であると表明して、クーラウにモーツァルトの自筆譜を贈呈しました。(脚注 2)

彼はすでにハンブルクではピアニストとしても作曲家としても優れたキャリアを持つと予測されていましたが、戦争のため突然中断され、今日ではその代わりにデンマークの音楽界に輝かしくその名を刻んだと言っても過言ではありません。音楽の歴史を振り返ると、それは彼自身が望んでいたものとはまったく異なる方法でキャリアが発展することを意味しました。コペンハーゲンでの滞在は当初、彼はストックホルムに行き、おそらくそこからサンクト・ペテルブルクまで向かうコンサート・ツアーの一環として意図されていました。しかし、彼はデンマーク宮廷音楽家の称号に誘惑されたため、彼の運命は決まりました。彼は、オファーされた定職を何年も待たなければならず、その間、ピアノのレッスンをしたり、コペンハーゲンに拠点を置く音楽出版社 C. C. ローセに弾きやすい「ピアノ曲」を提供したりすることで、多かれ少なかれ、自分の人生を委ねなければならなかったのです。ただし、彼は劇場用の作品もオファーされていたことを付け加えなければなりません。注意していただきたいのは、報酬がたとえばワイセ (訳者註：Christoph Ernst Friedrich Weyse (1774 - 1842) ドイツ生まれの作曲家、1789 年よりコペンハーゲンに移住) よりも大幅に低かったことです。ここ数年、クーラウは、自分の心に最も近い音楽、つまりピアノ音楽、特に大きな形式の仕事の脇に置かなければならないと何度も不平を言っています。彼自身、この状況を「Die Kunst geht nach Brot!」(芸術はパンを追い求める!) という言葉で表現していました (脚注 3)。

ピアニストとして、そして教師としてのクーラウ

すでに述べたように、クーラウがコペンハーゲンで最初に成功したのはピアニストとしてでした。しかし、ピアニストとしての彼は、多かれ少なかれ独学で学んだものと言わざるを得ません。我々が知っているのは、彼が子供の頃、リューネブルクの聖霊教会のオルガン奏者だったハルトヴィッヒ・アーレンボステルからピアノのレッスンを受けていたということだけであり、そのレッスンはおそらく彼が 16 歳でカタリネウム高校 (訳者註：ブラウンシュヴァイクの寄宿舎学校) の生徒になった後も続けられたと思われる。いずれにせよ、ここでは聖ペテロ教会と同様に、音楽学生が演奏した事情が重要な役割を果たしています。カタリーナ教会の聖歌隊は学校の生徒で構成されていました。しかし、クーラウが数年後にすでにコンサート・ピアニストとして演奏できるようになったということは、彼自身が異常なまでにピアニストのスキルを訓練したという事実によってのみ説明できます。

クーラウの演奏についてはさまざまな意見があります。作曲家の A. P. ベアグレン (訳者註：Andreas Peter Berggreen 1801-1880 デンマークの作曲家、オルガニスト、教育家) は、クーラウの演奏はまったく印象に残らなかったと主張しており、一方、クーラウの非常に感情的な演奏ぶりを強調する人もいます。特筆すべきは大げさな表情で、演奏中に肩をすくめるシーンもコミカルな印象を与えたに違いありません。それはともかく、彼の演奏能力はコペンハーゲンの聴衆が慣れ親しんでいたものをはるかに上回っていました。ワイセとは異なり、彼はパーティーに招待されたときに演奏することを恥ずかしがらず、初見で演奏することを好んで行いました。

コペンハーゲンでの最初の数年間、彼は生計を立てるために貴族や上流階級の息子や娘たちを教えなければならませんでした。その後、作曲で収入を得るようになると、プロのキャリアを目指すだけを教えるようになりました。その中には、後にコペンハーゲンの音楽界で一定の役割を果たすようになった甥のゲオルク・フリードリヒ・クーラウ (1810-1878)、非常に才能に恵まれた Nicolai Gerson ニコライ・ゲアソン (1802-1865) を挙げなければなりません。彼は 12 歳の時、クーラウとモーツァルトの 2 台のピアノのための協奏曲 KV 365 を演奏しました。同様にスウェーデンで短いキャリアを終えたキール生まれのカール・シュヴァルトツ (1803-1834) もいます。1819 年頃、クーラウは完全に教えることをやめました。ドイツ人の友人、イグ

ナーツ・モシェレス (1794-1870) に宛てた手紙の中で、10年後に彼は次のように書いています。「教えることほど嫌いなものはない。教えることは自分の音楽的アイデアをあまりにも妨げてしまう。だから教えることをやめてからもう10年も経つのです。」

モシェレス自身もその少し前にデンマークの首都を訪れており、そこでコペンハーゲンの人々に新しい名手的演奏スタイル --- カルクブレンナー、後にはタールベルク、ヒラー、ショパン、リストなどのような --- を披露しました。クーラウは彼らにまったく匹敵することができず、これがおそらく彼自身のコンサート活動を少なくした一因となっています。彼が最後にコペンハーゲンでのコンサートで演奏したのは1822年でした。しかし、彼は1828年5月、イエーテボリ (訳者註：スウェーデンの都市) でコンサートに出演しています。「以下の署名者によって作曲・演奏されたピアノフォルテのための協奏曲」 - ピアニストの技術に関して言えば、彼がまったく超然としているはずがありません。イエーテボリでのコンサートについて言及すれば、有名なハ長調のピアノ協奏曲に加えて、次のことを言及しなければなりません。クーラウはピアノ協奏曲ハ長調のほかには短調のピアノ協奏曲も書いており、それは間違いなく彼がイエーテボリで演奏したほか、他の機会にも何度か演奏したものです。この曲 (訳者註：ハ短調のピアノ協奏曲) は二曲のうち、より優れているものであるだけでなく、総合的に見てクーラウの最高傑作の一つに違いありません。残念なことに、未発表の楽譜は1831年にクーラウが住んでいた家が火災にあった際に失われてしまいました。

大規模なソナタ

クーラウの最初のソナタは、「クラヴサンまたはピアノ・フォルテのための3曲の大ソナタ 作品6」としてハンブルクの出版社フォルマーから出版されました。これらは1807年から1810年の間のいずれかに近いものであると考えられます。この時点でクーラウはすでにより大規模な作品を作曲していましたが、内容の点で彼はそれらに満足できず、したがって「一連の作品からそれらを除外した」のです。これは、クーラウの最初の伝記に記載されています。(脚注5) このため、最初の作品番号の一部が2回表示されることになり、混乱を避けるために、Dan Fog ダン・フォグのクーラウ作品リストでは、これらにaまたはbが追加されています。この3曲のソナタは作品6aとして指定されていますが、クーラウにはこれらのソナタを

恥じる理由はなく、1822年にハンブルクの出版社Kranzクラッツから「neue Auflagen von Jugend-Arbeiten des Componisten」(作曲家の若い頃の作品の新版)として再出版されました。ちなみに、模範となったのは明らかにモーツァルトです。ソナタの最初の主要テーマは、モーツァルトのイ短調ソナタKV 310の対応するテーマに酷似しており、ソナタの最後の変奏曲は、『魔笛』の「僧侶の行進曲」を主題にして書かれています。

クーラウが当時最も著名な音楽出版社であるライブツイヒのブライトコップフ&ヘルテル (B&H) に足がかりをつけたのはシュヴェンケでした。クーラウは最初のものとして、1810年にピアノ ソナタ 変ホ長調 作品4をここから出版してもらいました。これは長さ(27ページ)と内容の両方でベートーヴェンの作品に近い作品です。シュヴェンケはまた、同じくB&Hから発行されていた当時の有力な音楽雑誌、アルゲマイネ・ムジカーリッシェ・ツァイトウング (AmZ) でこのソナタを批評することを申し出ていました。しかしそれは行われませんでした。一方、次の作品のピアノソナタ 二短調 Op. 5a. については1813年2月3日発行のAmZには次のように掲載されました。

最近クーラウ氏は、数少ない重要な作品を通じて、次のようなピアニスト --- すなわち深刻な意味、高貴なものに向けられた趣味、そして徹底した全声の準備を理解する方法を知っているすべてのピアノ奏者が --- 注意を怠ってはいけぬ作曲家であることを示しました。このソナタは、優れており、新しいアイデアも珍しくなく、同様に優れた、しばしば新しい同じものの扱いは個性と一貫性があり、ハーモニーの高貴さ、楽章の純粋さと厳格さによって区別され、楽器の利点をしっかりと効果的に使用しており、当たり障りのないものではなく、豊かなピアニスティック作品です。

ソナタ Op. 5はクーラウがコペンハーゲンで作曲した最初のものに違いありません。この曲は1814年に31ページのソナタ イ短調 Op. 8a. によって引き継がれました。多くの人の意見では、この作品 (訳注 Op. 8a) はクーラウの最高傑作であり、AmZ (1815年3月15日) でも異例に長い評論で賞賛を浴びました。その評論の抜粋をここに引用する必要があります。

クーラウ氏は、自分が何を書いているのかを本当に理解しており、賞賛に値する対位的博識とともに、それを表現できる芸

術家の数少ない一人です。彼には創意工夫があり、作品に個性を与える方法を知っていて、メロディーは絶妙で、音型は生き生きとしており、パッセージは輝かしく、音域の扱い方は素晴らしく、ハーモニーの処理は正確です。これが彼の初期の作品、そして現在のソナタにおいても自分自身を示している方法であり、決して大勢の聴衆のために書かれたものではありません。

個々の楽章を徹底的に検討した評者は次の言葉で結論付けています。

評者は、真の尊敬の念を込めて、また近いうちにまた頻繁に彼の作品の中で彼に会いたいという願いを込めて、クーラウ氏と別れを告げます。この願いは、単に初めてクーラウ氏と知り合いになっただけの評論家や訓練した本物のピアノ奏者が、いつか必ず彼と共有するであろうという願いです。

クーラウの他の作品、イタリア語とドイツ語の歌曲、フルートの二重奏なども AmZ で高く評価されており、総じてクーラウは期待される人物として何度もクローズアップされています。スイスの作曲家、音楽評論家、出版社の H. G. Nägeli ネーゲリ氏は 1814 年 7 月 20 日の月刊誌で次のように述べています。

天文学者は、自分たちの観察や発見を熱心に互いに伝え合う傾向があります。これは真似すべきではないでしょうか？新しいスターとして、私たちは器楽作曲家クーラウについて考慮する必要があります。そして、この音を邪魔な異質なものとして読み飛ばさないようにして、私たちのピアノ奏者がクーラウの作品を高く評価していることを付け加えておきます。

その間、前述のピアノ協奏曲ハ長調も B&H から出版されていました。不思議なことに、この曲は AmZ では紹介されていませんでしたが、最近再発行され、頻繁に演奏され、いくつかの録音に残っているため、これ以上紹介する必要はほとんどないでしょう。ただ言及する必要があるのは、すでに 1806 年 3 月 15 日、クーラウはハンブルクでのコンサートで自作のピアノ協奏曲を演奏しており、それが同じ協奏曲であることを多く示唆していますが、その時点では作曲家も十分満足できる内容でなく、まだ形になっていなかったということです。いずれにせよ、4 年後、より正確には 1810 年 10 月 6 日に、彼は B&H に対し、「私自身がその効果を試す機会が得られ次第」出版社にピアノ

協奏曲を提供できると伝えましたが、しかし、その機会がコペンハーゲンであるとは、手紙を書いた時にはおそらく彼は想像していなかったでしょう。さらに、この協奏曲とベートーヴェンとの関連性は明らかで、おそらく彼（訳注：ベートーヴェン）の第 1 番ピアノ協奏曲（これもハ長調！）が直接のモデルであると言えるでしょう。ベートーヴェンといえば、デンマークに初めてベートーヴェンのピアノ音楽を紹介したのがクーラウであることもここで述べておきます。しかし、ベートーヴェンは当初、コペンハーゲンの聴衆の好みに合うようなデンマーク的でなかったため、この摩擦は剣による攻撃なしには起こりませんでした。ワイセの耳には、ベートーヴェンは「陛下の忌まわしき国民のための音楽」のように聞こえたとし、モーツァルトの音楽でさえ、それより何年も前には劇場支配人によって「ある愛好家にとっては興味深いかもしれないが、ある愛好家にとっては退屈で奇怪なもの」と特徴づけられていました。（脚注 7）

また、クーラウがピアノ奏者として演奏したときに聴衆に披露したのが、大規模なピアノ・ソナタであったとは想像すべきではありません。AmZ の評論家がいくぶん見下して述べていますが、それらは「決して大群衆向けに書かれたものではない」のです。聴衆が求めていたのは、理解しやすく、当時流行していたメロディーを簡単に認識できる音楽でした。クーラウがハンブルクに住んでいたときに作曲した初期の変奏曲は、その後失われており、私たちが知っているのは出版社のカタログと新聞の告知だけです。これに関して後で再び述べます。しかし、ソナタ形式は、クーラウがピアノ音楽に関して扱うことを好んだジャンルです。あとでもう一度お話しします。ここでも、私たちが大きな形式について話していることを強調しなければなりません。しかし当時は、B&H のような出版社ですら、顧客を「既存のサークル」に求める必要がなくなったという事実に関しなくてはならませんでした。今やピアノがステータス・シンボルとなったブルジョワ階級が好みを決めるようになり、耳に馴染みやすく弾きやすい方向へ進んでいきました。1815 年にクーラウが B&H に新しいソナタを提供したとき、そのオファーは拒否され、その後同じソナタを楽譜出版社ペータースにオファーしたときも同様でした。この曲は変ハ長調の「グランド・ソナタ」のことで、書簡から分かるようにクーラウは当初この曲に作品番号 16 を与えました。この番号は現在、代わりに「クリスチャン王はマスト側に立っていた」（この曲については後で詳しく

説明します)の変奏曲に割り当てられています。そしてこのソナタは本棚にしまわれて、クーラウの死後に再び姿を現し、最終的に C. C. ローセ社から作品 127 として出版されました。

クーラウが「グランド・ソナタ」というタイトルを使用するのはこれが最後です。それ以後のソナタは、1 曲の例外を除き、小規模というだけでなく、技術的な要求が低いものです。それにもかかわらず、B&H は 1821 年に例外的にソナタ 変ロ長調 作品 30 を出版することを約束しました。35 ページあるこの曲は、ベートーヴェンの最も長いソナタをも上回ります。終楽章（訳者註：第 4 楽章）だけでも 705 小節の長さで、AmZ の評論家も作曲家が「時折精緻になりすぎる」と指摘しています。よく知られているように、シューベルトも同じことで批判されました（ちなみに、クーラウのより成熟した作品のいくつかの箇所、シューベルトを思い出させるものがあります）が、後に人は「緻密性」を理解するようになり、今では「神聖な長さ」について語られるようになりました。そして同じことがクーラウの大規模な変ロ長調ソナタについても言えます。ただし、他のソナタが技術的にそれほど要求されていないという事実は、それらが音楽的に劣っていることを意味するものではありません。それどころか、クーラウはここで、評者がしばしば強調する「Gelehrtheit und Gründlichkeit」（博学さと徹底さ）を、初期のソナタでは時には見逃されがちですが、このソナチネをはっきりと特徴づけていて、すぐに演奏できる喜びと結びつけることに成功しています。それは 3 つのソナタ作品に関するものです。1821 年にポンの Simrock ジムロック社から出版された作品 26、1822 年に B&H から出版された（ちなみに、この曲はクーラウの最初のウィーン訪問中に作曲された）単独のソナタ作品 34、同じく 1823 年にハンブルクの Kranz クランツ社から出版された 3 曲のソナタ 作品 46。作品 52 の 3 曲のソナタも 1823 年にライプツィヒの Probst プロブスト社から出版されました。クーラウの「本物の」ソナタにまだ慣れていない場合は、後者のソナタから始めることをお勧めします。その後、より技術的に要求の高い初期のソナタに取り組むことができます。死後に出版された作品 127 は内容も優れており、技術の面でも最適です。



これは、ピアノ・ソナタ 作品 46 第 2 番の 1823 年の初版のページです。このソナタは、性格も形式もベートーヴェンの「悲愴」ソナタを彷彿とさせ、このようにゆっくりとした序奏で始まります。クーラウのピアノ・ソナタ集の現在出版予定（訳者註：本冊子の出版は 2012 年 9 月であり、IFKS のピアノソナタ集・出版は 2012 年 12 月のことでした。）の同じソナタの冒頭を示します。19 ページのイラストと比較してください。

しかし、これらのソナタがどれも今まで再版されていないことが問題であることは間違いありません。古い版やますます希少になっている版は公共図書館から借りることができず、閲覧室での使用にのみ入手でき、通常はコピーを取ることができます。しかし、デンマーク王立図書館は大規模なデジタル化プロジェクトの進行中であり、この記事の執筆時点である 2012 年 9 月には、ソナタのほとんどを含むほぼ 100 点のクーラウの作品が含まれています。デジタル化された楽譜は、インターネット上で無料で利用できます。インターネット上の IFKS ウェブサイトでは、クーラウ作品の豊富なセレクションもご覧いただけます。IFKS とは、日本のクーラウ研究家の石原利矩氏によって設立された国際的・フリードリヒ・クーラウ協会の略です。多くの場合、音楽は MIDI ファイル（訳者註：現在は MP3 ファイル）の形式でも聞くことができます。（脚注 9）

以下にソナタの概要を示します。ソナタは作品番号順に並べられています。しかし、これは常に作成時または出版時を反映しているわけではありません。

クーラウのピアノソナタ

- ソナタ 変ホ長調 Op. 4 (B&H、1810、27 ページ)
ソナタ ニ短調 Op. 5a (B&H、1812、23 ページ)
3曲のソナタ Op. 6a、イ短調、ニ長調、ヘ長調 (フォルマー、1810年以前、47 ページ)
ソナタ イ短調 Op. 8a (B&H、1814、31 ページ)
3曲のソナタ Op. 26、ト長調、ハ長調、変ホ長調 (ジムロック、1821年、それぞれ12、21、19 ページ)
ソナタ 変ロ長調 Op. 30 (B&H、1821、35 ページ)
ソナタ ト長調 Op. 34 (B&H、1822、13 ページ)
3曲のソナタ Op. 46、ト長調、ニ短調、ハ長調 (クランツ、1823年、それぞれ15、11、20 ページ)
3曲のソナタ Op. 52、ヘ長調、変ロ長調、イ長調 (プロブスト、1823年、全39 ページ)
ソナタ 変ホ長調 Op. 127 (1820年に作曲されましたが、死後1833年にローセ社から初出版、25 ページ)

ソナチネ

さて、私がソナチネを劣っているものと考えているという印象を抱かないでください。これらは、このジャンルの中で現存する最高のもののいくつかを代表しており、これは、世界中のほぼすべての主要な音楽出版社がクーラウのソナチネのセレクションを提供しているという事実によっても証明されています。クーラウのことをソナチネのことでは知らないのは、ベートーヴェンをピアノ曲「エリーゼのために」だけで知っているのと同じことだ！と私は強調したいと思います。

B&H社から1820年に出版された最初のソナチネ集 Op. 20に関して、1821年9月26日のAmZの短い書評では、最初に次のように述べられています。「最初の訓練を終えた、今では一貫した興味深い内容や講義を求めている学生向け」。次の作品集 作品55は6曲のソナチネから構成され、1823年にリヒター、ベヒマン、ミレ (訳者註：Milde) によってコペンハーゲンで出版されました。翌年にはすでに作品集 作品59が出版されており、そのタイトルページでは正確に組曲と呼ばれています。Suite de l'Oeuvre 55 (「作品55の続き」)。出版はハンブルクのクランツ社で行われましたが、その間にこの作品の権利はクランツが引き継いでいました。オリジナルのタイトルページの作品 作品59のオリジナルのタイトルページがソナチネではなく、「Trois Sonates faciles et brillantes」(訳者註：容易で輝かしい3曲のソナタ)と記載されていることも注目に値します。お

そらくクランツ自身がこの言葉を選んだのは、明らかに、あまり技術的な要求をせずに素晴らしいサウンドの音楽を顧客に提供できるようにしたいという願望があったからでしょう。クーラウはこの課題を見事に解決しました。その後、作品59は、クーラウの無数のソナチネ集のほぼすべてに収録されており、現在も次々と版を重ねています。さらに1年後 (現在は1825年)、クランツは作品60を出版しました。このコレクションの3曲のソナチネはすべて2楽章であり、最終楽章はそれぞれ、ロッシーニの主題による一連の変奏曲でした。その際、クーラウがほとんど恥知らずと言えるほど低い報酬に不満を漏らしたとき、クランツはその仕事をおそらく多額の資金でその榮譽を受け取ってくれるであろう慈善家に割り当てることを提案しました。そして白羽の矢はスウェーデンのエリック・ノルケン男爵に向けられました (おそらくクーラウはコペンハーゲン社交界で彼に会ったことがあるのでしょうか)。そしてその期待は完全に満たされました。100 ドウカットに加えて、クーラウはイースタッド (Ystad) 近くのヨルベルガ (Jordberga) の邸宅にある男爵を訪問する招待状を受け取り、ここで彼は快適な14日間を過ごしました。

最後に、C.C. ローセ社から1827年に4曲のソナチネ作品88が出版されました。これらのバガテルのコンサート用作品の作成について、音楽的品質の証拠として、作品88の第3曲の終楽章の祝祭的なアレグロ・ブレスコを編曲したのが他にもないマックス・レーガーであることが挙げられます。作品88に関して、ローセがクーラウをピアノと筆記用具とポートワインの瓶だけが備え付けられた部屋に閉じ込め、ソナチネを作曲し終わるまで外に出ることを禁止したという逸話が語られています。ローセがクーラウにソナチネを非常に短期間で仕上げるように圧力をかけたこと、またソナチネが一定のページ数を超えないよう要求したことは、本当のことであると思われます。しかし、他のことは詩 (訳者註：想像的な事柄) であり、特にポートワインに関しては、ワイセがある所で言ったように、クーラウが「アルコール」に対する過度の傾向を育てたはずであるという考えを通して、私はこの機会を利用したいと思います。同じワイセは、クーラウはアルコール中毒で亡くなったと手紙の中で主張さえしています (脚注10)。これは実際、一方ではクーラウを競争相手とみなし、他方では同僚よりも社会的に優れていると感じていたワイセについて詳しく語っています。いずれにせよ、そのような主張は、クーラウが非常に勤勉で良心的な人物であり、彼の生徒や

友人によって描写されている事実と合致していません。彼自身は衣服も身なりも非常にきちんとしていました。

この章も全体的な概要で締めくくる必要があります。合計 19 曲のソナチネのうち、短調の作品は 1 曲だけであることに注意してください。聴衆はついに悲しい気分になることを許されませんでした。そしてその短調の作品とは、おそらく最も人気のある作品 88 のイ短調ソナチネです！

クーラウのソナチネ

3 曲のソナチネ Op. 20、ハ長調、ト長調、ヘ長調 (B&H、1820.Lose、1821)

6 曲のソナチネ Op. 55、ハ長調、ト長調、ハ長調、ヘ長調、ニ長調、ハ長調 (リヒター、ベックマン、ミレ、1823 年)

3 曲のソナチネ Op. 59、イ長調、ヘ長調、ハ長調 (クラッツ、1824 年)

3 曲のソナチネ Op. 60、ヘ長調、イ長調、ハ長調 (クラッツ、1825 年)

4 曲のソナチネ Op. 88、ハ長調、ハ長調、イ短調、ヘ長調 (ローセ、1827 年)

変奏曲作品

クーラウがコペンハーゲンに来る以前に作曲した変奏曲のうち、今日知られているのは、1807 年頃にハンブルクの Rudolphs ルドルフス社によって出版された、Air de Berton (脚注 11) variée pour le Fortepiano (訳注：ピアノのためのベルトンの旋律の変奏曲) DF 196 (脚注 12) だけです。コンサート・プログラムと出版社のカタログから、私たちは 3 曲の変奏曲名を知っています。これらはおそらくこの時代のものです：ピアノフォルテ変奏曲：Auf Hamburgs Wohlergehen (訳者註：ハンブルクの繁栄に寄せて) (DF 197)、LXVII ピアノフォルテ変奏曲 (DF 198)、およびトゥール・オブスキュア変奏曲 Lorsque dans un Tour obscure (訳者註：暗い塔にいる時) (DF 199)。最初の曲に関して言えば、テーマは当時非常に人気のあった「乾杯の歌」であると言えます。2 番目の曲に関しては、クーラウが本当に 67 (訳者註：LXVII = ローマ数字で 67) のバリエーションを持つ作品を書いた場合、それはおそらく世界記録であり、L は誤植であり、実際には XVII=17 曲であると私は推測します。3 番目の曲の主題は Dominique Della Maria (ドミニク・デラ・マリア) (訳注：作曲家 1768 - 1800) の音楽による演劇「Le Prisonnier」(訳注：囚われ人) に由来していると言えます。

クーラウがコペンハーゲンで作曲した変奏曲、作品 14 が出版されました。この曲は、1813 年にローセの音楽月刊誌「新・アポロ」に掲載されました。(この月刊誌については後で説明します。) テーマは、当時流行していたパーティー・ソング「Manden med glas i hånd」(盃を手にしている男) で、多くの歌集に収録されています。元々はアレクサンダー・デュヴァルの戯曲『ヘンリー五世の青春』に登場したものです。ちなみに、「ゴッド・セイブ・ザ・キング」の変奏曲であり、クーラウの演奏会プログラムではこの作品がイギリス国歌変奏曲としても発表されることがあります。

1815 年、作品 12 として、ケルビーニのオペラ『二日間』の aria 「摂理の導き」の変奏曲が続きました。この作品は B&H から出版されました。ケルビーニのオペラはコペンハーゲンの観客のお気に入りの作品の 1 つでした。それは演劇史家の Th. オーワスコウの言葉「音楽の趣味に好影響を与える」(脚注 13) ものでした。オペラ作曲家としてのクーラウ自身は明らかにケルビーニの影響を受けていて前述の変奏曲を自身のコンサートでよく演奏しており、1816 年 2 月 14 日の AmZ ではその変奏曲は称賛されています。

1816 年、B&H はノルウェー民謡の変奏曲「God Dag, Rasmus Jansen med din Kofte」(訳者註：こんにちは、コフテを着たラスムース・ヤンセンさん) 作品 15 を出版しました。そして 1819 年に、ローセは再び「新・アポロ」の購読者に新しいヴァリエーション作品を提示することができました。今回は「クリスチャン王は高いマストの横に立っていた」作品 16 を主題にしています。ここではメロディーはまだ最終的な形になっていません。(脚注 14)

次の変奏曲は、ハンブルクの Böhme ベーメ社から作品 18 として出版されました。クーラウは、1814 年に初演された自身のオペラ『盗賊の城』からテーマを用いています。いわゆる「盗賊の歌」です。この「ようこそ、暖かい紫色の盃」という変奏曲もクーラウはコンサートでよく演奏したようです。変奏曲作品の最高の曲は『Variations sur une chanson danoise デンマーク民謡による変奏曲』(B&H、1820 年) ですが、AmZ でも高く評価されました(1821 年 1 月 17 日)。このメロディは当時の民謡集の中に見当たりませんが、しかし、それはほぼ確実に、有名な「Det var en Løverdags Qvælde」(それは土曜日の夜でした) の忘れられたメロディーです。1815 年の時点で、クーラウのコンサート・プログラムには「Det var en Løverdags

Qvælde」の変奏曲が収録されていますが、このタイトルは明らかに一部の印刷版には載っていませんが、民謡の歌詞は作品 22 の題名と完全に一致しています。一般に知られているメロディーは 1800 年代初頭に起源を持ちますが、クーラウが使用した教会調のメロディーのルーツは中世に遡ります。クーラウは民謡の熱心な収集家でした。彼はその古いメロディーをまだ覚えている誰かにそのメロディーを歌ってもらったのかもしれませんが - そしてそのようにしてそれはクーラウの変奏曲の中で生き残ったのです！クーラウのピアノ変奏曲で August Winding による新版 (Det Nordiske Forlag, 1897 年) に掲載されているものは作品 22 のこの曲だけです。

1821 年にジムロックによって出版された *Fantasia et variations sur des airs et dances suédois* (スウェーデンの民謡と舞踊によるファンタジーと変奏曲) 作品 25 は、クーラウがスウェーデンの民謡メロディーに大きな関心を持っていたことを証明するもう 1 つの証拠です。すでに見たように、クーラウはしばしばスウェーデンに滞在しており、スウェーデンの民謡のメロディーはピアノ作品だけでなく、フルート作品のいくつかにも登場します。忘れてはいけないのが、「デンマークの国民歌」のメロディーの多くが使われていると言われる『妖精の丘』です。しかしこれらのメロディはスウェーデン起源であることが知られています。

1819 年、優れた有用科学推進協会はデンマーク国歌のコンテストを発表しました。今日ではまったく無名のジュリアン・マリー・イエセンによる文学的傑作『デンマーク、デンマーク、聖なる響き』が受賞しましたが、これは審査委員会が匿名で提出された原稿でエーレンスレーヤーの筆跡を認識できると考えたためとされています。その後のメロディー・コンテストではワイセが優勝しましたが、ワイセはおそらくパロディとしての貢献を意図していました (脚注 15)。ワイセとは異なりデンマーク語を習得したことがなかったクーラウが、この問題の滑稽な性質を理解していたかどうかは不明ですが、1821 年にクーラウがワイセのメロディーの変奏曲を「新・アポロ」に印刷したことは確かです。これはおそらくローセの指示によるものでしょう。この曲には作品番号 35 が与えられました。

オーストリア民謡の 6 曲の変奏曲 作品 42 は、Fr. ホフマイスターから 1822 年に出版されています。これはより細い脚のものに属し (訳者註: 重厚な音楽でないことを言っていると思われる)、同じことがおそらく作品 48、49、

53 についても言えるでしょう。それらはすべてウェーバーのオペラをモチーフにして作曲されています (ちょうど『狩人の花嫁』(訳者註: 『魔弾の射手』のこと) がデンマークで初演されたばかりでした)。作品 54 は Antonio Bianchi アントニオ・ビアンキのカンツォネット「Nur zärtliches Kosen im blühenden Haine」(木立の中でただ優しい愛撫だけ) の 12 の変奏曲 (フルート曲の *Fantasia* 作品 38 Nr. 2 でクーラウが使用したのと同じ主題) は作品 22 で見られた高みと同様な箇所がところどころに出てきます。1824 年、再びウェーバーが登場します。今回はオペラ『オイリアンテ』から 3 つの主題を取り上げています。3 曲の変奏曲は作品 62 としてローセ社から出版されました。

かなりのクオリティの変奏曲作品はスウェーデン民謡「Och liten Karin tjente」(そして幼いカリンが仕えました) をもとに作曲され、ローセとライブツィヒの出版社プロブスト (Probst) が共同出版した作品 91 です。クーラウは晩年、パリの出版社アリストイド・ファランク Aristide Farrenc (1794-1865) と非常に有利な契約を結ぶことができました。ファランクは、古い時代から最近の時代までの最高のピアノ音楽を集めた 23 巻の著作『Le Trésor des Pianistes』(ピアニストの宝物) を出版したことで現在でも知られています。彼はほとんどの商売仲間よりもビジネスにあまり熱中していませんでした。それは、クーラウが彼に同意した作品にもはつきりと感じられます。1831 年に出版された作品 112 です。AmZ で短いながらも称賛の言及を受けました。おそらくファランクが選んだと思われる 3 つのテーマは、それぞれ次のようなものに由来しています。ベッリーニの『Il pirata』(海賊)、オーストリアの民謡、フンメルによる未確認の作品です。

ブラウنشユヴァイクの出版社 J. P. Spehr (シュペール) との別の変奏作品の契約はロッシーニの『ヴィルヘルム・テル』の主題による作品 116 は、シュペールの「ピアノ奏者のためのオイタープ・小雑誌」1831 年に印刷されました。(そこには Fr. Hartmann ハルトマン, Charles Koch コッホ, H. Werner ヴェルナーなど、今日では誰も知らない作品が見られます)、タイトルページでクーラウが発行者として書かれていますが、これが契約に含まれていた可能性は低いようです。最終的にその名がよく知られるようになったクーラウが、定期的にここで取り上げられたことを示す多くの兆候があります。

ここで言及した作品の全体的な概要を示してこの章を締

めくります。

クーラウの変奏曲

「摂理の導き」による変奏曲 (ケルビーニ) Op. 12 (B&H、1815年)

「盃を手にした男」による変奏曲 Op. 14 (ローセ、1813年)

「こんにちは、コフテを着たラスムス・ヤンセンさん」による変奏曲、Op. 15 (B&H、1816年)

「クリスチャン王が高いマストの側に立っていた」による変奏曲、Op. 16 (ローセ、1819年)

デンマークの歌による変奏曲 (「土曜日の夕方だった」) Op. 22 (B&H、1820年)

「デンマーク！デンマーク！聖なる響き！」の変奏曲、Op. 35 (ローセ、1821年)

6曲のオーストリア民謡による変奏曲 Op. 42 Nr.1-6 (ホフマイスター、1822年)

ウェーバーの『魔弾の射手』の主題による変奏曲 op.48 (ローセ、1822年)

ウェーバーの『魔弾の射手』より 6つの主題による変奏曲 Op. 49 Nr. 1-6 (ローセ、1822年)

ウェーバーの『プレシオーザ』より 3つの主題による変奏曲 Op. 53 Nr. 1-3 (イプセン、1823年)

ピアノの「カンツォネッタ」による変奏曲 Op. 54 (ホフマイスター、1823年)

ウェーバーの『オイリアンテ』Op. 62 Nr. 1-3からの3つの主題による変奏曲 (クランツ、1825年)

「そして幼いカリンが仕えました」による変奏曲、Op. 91 (プロブスト、ローセ、1828年)

3曲の主題による変奏曲 (ベッリーニ、オーストリア民謡、フンメル) Op. 112 Nr.1-3 (ファランク、1831年)

ロッシーニ『ヴィルヘルム・テル』より 2つの主題による変奏曲 Op. 116 Nr. 1-2 (シュペール、1831年)

ベルトンの主題による変奏曲、DF 196 (ルドルフス、1807年頃)

「ハンブルクの繁栄に寄せて」による変奏曲 DF 197 (未発表) 変奏曲、

DF 198 (C.F. WhistlingのHandbuch der musikalischen Literaturからのみ知られています)。

「暗い塔の中で」による変奏曲、DF 199 (フォルマー、1804年)

ロンドとファッション現象「愛好されているメロディのロンド」

フォグのカタログには、作品1、2、3として、1810年から1814年にかけてライプツィヒのホフマイスターから出版された3曲のロンドが掲載されています。これらはおそらくクーラウがまだシュヴェンケの弟子だった間に作曲されたものと思われ、この出版はおそらく、その曲を献身的に捧げられているヴァルモーデン・ギンボルン男爵夫人がそれらを後援したためにのみ実現したものと思われま。彼は、まだ自分のスタイルを見つけていませんが、非常に真面目で博識で、さらには演奏が難しいという印象を与えたい若い作曲家のようです。3曲のロンドは12ページ、10ページ、10ページですが、必ずしも量と質が合っていないかもしれません。

ロンドは、このジャンルが通常認識されているように、クーラウはまた、出版物「Sechs leichte Rondos」(6曲の易しいロンド) 作品40 (Hofmeister、1822年) および「VIII Rondeaux faciles」(8曲の易しいロンド) 作品41 (B&H、1822年) で培ってきました。タイトルからもわかるように、このロンドは全部で14曲あり、作品1、2、3とは正反対とも言えるものです。どれも非常に軽く、それぞれ2～3ページほどの長さです。クーラウは、聴衆の願いと出版社の要求に従う必要性をずっと前から認識していました - 彼自身が言ったように、「Die Kunst geht nach Brot 芸術はパンを追い求める」！です。

しかし、聴衆と出版社がロンドに関して期待していたものは、まったく別のものでした。実際、非常に強力な音楽ファッションは、タイトルページに「rondeau sur un thème favori ロンドー・シュール・アン・ティーム・ファヴォリ」とありますが(つまり、ロンド。リトルネッロまたはテーマはよく知られたメロディー(通常はアリアなど)から取られます。) オペラや歌劇の典型的なタイトルは、たとえば「セビリアの理髪師の主題によるロンド」です。当時の作曲家のほとんどはこのジャンルを開拓しており、クーラウも例外ではありません。彼は合計25曲の「オペラ ロンド」を書きました。しかし、いつものように、彼は限られた枠組みの中でベストを尽くそうとしています。クーラウの「オペラ・ロンド」のいくつかは再び明るみに出ることをよく語っており、実際にCDに収録されたものがいくつかあります。(脚注16)

それらのほとんどは、元々はローセの音楽月刊誌(次の章を参照)に掲載され、その後通常の楽譜小冊子(別冊)

に掲載され、多くの場合 3 つのグループにまとめられました。ここで簡単に言及することはこの記事の範囲外であるため、この場合は概要から始めて、その後いくつかのコメントで補足します。他のコメントは、ローセの月刊音楽ジャーナルの章に続きます。ここでのタイトルはデンマーク語に変換されていることに注意してください（訳者注：デンマーク語は直接日本語に翻訳しています）。

クーラウのロンド

オペラのお気に入りのメロディーによる 3 曲の軽快なロンド Op. 31

第 1 曲 『ドン・ジョヴァンニ』（モーツァルト）の主題による

第 2 曲 『フィガロの結婚』の主題による（モーツァルト）

第 3 曲 『赤ずきんちゃん』の主題による（ボワエルデュー）

オペラのお気に入りのメロディーによる 3 曲の軽快なロンド Op. 56

第 1 曲 『フィガロの結婚』の主題による（モーツァルト）

第 2 曲 『フィガロの結婚』の主題による（モーツァルト）

第 3 曲 『フィガロの結婚』の主題による（モーツァルト）

オペラのお気に入りのメロディーによる 3 曲の軽快なロンド Op. 73

第 1 曲 『雪』のテーマによる（オーベール）

第 2 曲 『セビリアの理髪師』の主題による（ロッシーニ）

第 3 曲 『セビリアの理髪師』の主題による（ロッシーニ）

オペラのお気に入りのメロディーによる 3 曲の軽快なロンド Op. 84

第 1 曲 『白衣の貴婦人』の主題による（ボワエルデュー）

第 2 曲 『白衣の貴婦人』の主題による（ボワエルデュー）

第 3 曲 『レンガ職人』の主題による第 3 番（オベール）

「コペンハーゲンの魅力」Op. 92。（デンマークのお気に入りのメロディーによる華麗なイントロダクションとロンド）

『行商人』（オンスロー）の主題によるロンド、Op. 96

『マリー』（エロルド）の主題による 2 つの輝かしいロンド、Op. 97

お気に入りの旋律による 3 曲のロンド Op. 109

第 1 曲 「小太鼓」

第 2 曲 『セミラミス』の主題（ロッシーニ）

第 3 曲 ドイツの歌

3 曲の華麗なロンド Op. 113

第 1 曲 『リカルドとゾライデ』の主題による（ロッシーニ）

第 2 曲 『タンクレッド』の主題による（ロッシーニ）

第 3 曲 『ジョコンド』（イズアール）の主題による

ベートーヴェンの歌曲による 3 曲のロンドレット Op. 117

第 1 曲 「彼は幸せな人生を送る」

第 2 曲 「春の花が咲く」

第 3 曲 「まだ涙が乾かぬ時」

オペラのお気に入りのメロディーによる 3 曲の軽快なロンド Op. 118

第 1 曲 『ディアボロ』の主題による（オベール）

第 2 曲 『ディアボロ』の主題による（オベール）

第 3 曲 『ディアボロ』の主題による（オベール）

「パガニーニ」の主題による華麗なロンド Op. 120（脚注 17）

「パガニーニ」の主題による華麗なロンド Op. 121（脚注 18）

「ローデ」の主題によるロンド (DF 203)（脚注 19）

タイトルに「簡単な、易しい」(leichte、faciles) という言葉が入っている場合（おそらく出版社の明らかな要請によるものと思われます）、それは作品があまり大きな要求をしていないため、潜在的な購入者のより大きな範囲を期待できることを示しています。それはクーラウにとって特に満足のいくものとは言えず、おそらくクーラウ自身も、より想像力を養える「ロンド・ブリラン」を提供する許可を求めたのでしょうか、その分演奏者に非常に大きな要求を課すこととなります。「輝かしい」ロンドの 1 つとして特に言及しなければならないのは、「コペンハーゲンの魅力」作品 92 です。国や都市が歌われるこのような「地理的な」曲は、当時非常に一般的でした。例としては、フランツ・ヒュンテン『ワルシャワの魅力』作品 3、カルクブレンナー『ベルリンの魅力』作品 70、J. P. ピクシス『ウイーンの魅力』作品 48、カール・シュヴァルツ（脚注 20）『スエーデンの魅力』とイグナーツ・モシェレス『パリの魅力』Op. 54 などがあります。これらはすべて 1820 年代に作曲されました。デンマークの首都の魅力を音楽で表現する中で、クーラウは「緑に広がるデンマーク」（ルドルフ・ベイ作曲）、「デンマーク、デンマーク、神聖な響き」（ジュリアン・マリー・イエセンの国歌用のワイセのメロディー）、「青春の森へようこそ」（H. E. クロイヤー作曲）、そして壮大なフィナーレとして「クリスチャン王が高いマストのそばに立っていた」（脚注 21）。さらに、クーラウは自身のオペラ『ルル』のモチーフを取り入れています。

C. C. ローセ社の音楽月刊誌におけるクーラウのピアノ音楽

私たちはこれまでに、ローセ社の音楽月刊誌に初めて掲載されたクーラウのピアノ曲の例をいくつか見てきました。ローセの音楽店兼出版社はデンマーク市場における当時の先導者であり、おそらくクーラウがローセに「加わった」という表現を使うことができるでしょう。購読契約で定期的に音楽を上梓するというアイデアは新しいものではなく、ほとんどの場合、それは明るく楽しい音楽に対する増大するブルジョアジーのニーズを満たすことでした。購読者は1年分を購入することを約束したため、ローセは楽譜の出版に伴うリスクから身を守ることができ、さらに、出版物が音楽月刊誌に掲載された後は、個々の作品を通常の楽譜の小冊子として出版することができました（別刷り）。これは多くの外国人顧客を含む、購読していない顧客を対象としています。これらの分冊版は月刊冊子と同じ印刷版を使用して印刷されたため、制作にかかる費用は紙代だけでした。購読者は楽譜作成の中で最も高価な印刷版の代金をすでに支払っていました。唯一の欠点は、分割ページのページ割りがかなり奇妙になったことです。たとえば、そのような印刷物の最初のページは、月刊小冊子の中でそのページから始まっているため、例えば56ページと呼ばれる可能性があります。これらの別冊の版は今でも古本屋で見かけることができ、一部のページが欠けているのではないかと思うかもしれませんが、そうではありません。ローセは、1813年に発行を開始した月刊誌を最初は「新・アポロ」と呼んでいましたが（脚注22）、1827年にその名前を「オデオン」に変更しました（脚注23）。「新・アポロ」の創刊号は、すでに述べたクーラウ作曲の「ローデの主題によるロンド」です。クーラウは合計で50曲を下らない作品をローセの月刊誌に掲載しており、そのうち23曲は「お気に入りのオペラのメロディーによるロンド」でした。新聞での発表に関連して出版期限が決められているということは、これらの出版の時期を非常に正確に確認できることを意味しており、王立劇場のレパートリーの比較により、ほとんどの場合、少し前に劇場で初演されたオペラや音楽劇のメロディーが取り上げられていることがわかります。したがって、ローセはメロディーがまだみんなの口の端に残っているうちにこれらのものをクーラウに注文し、したがって多額の売り上げが期待できました。ローセも裕福になりました。しかし、作曲家についても同じことは言えませ

ん。ローセが提示した楽譜1枚あたりの料金（金額はそれほど大きくありませんでした）をクーラウが受け取ると、ローセは作曲家にダラー（訳者註：当時の貨幣価値で一番高い位、日本流に言えば万の単位）ほどの報酬を与えることなく、次から次へと自由に版を印刷することができました。ロンドに加えて、個々の変奏曲（これもオペラの主題による）、および数多くの舞曲や行進曲は、当初、ローセの音楽月刊誌に掲載されました。初期の3曲のソナチネ Op. 20は1820年にB&Hから出版され、翌年「新・アポロ」で再版され、その後別刷りとして出版されました。幸運にも後者のコピーを所有している場合は、前述の誤解を招くページ割りの典型的な例を見ることができます。

その他のピアノ作品まとめ

連弾ピアノのための音楽

クーラウは両手ピアノのための作品に加えて、連弾ピアノのための作品を38曲残しました。またそれらは、ソナタ/ソナチネ、変奏曲、ロンド、さらに15のワルツのカテゴリーに分類されます。繰り返しになりますが、ソナチネはその後世界中の音楽出版社から数え切れないほどの再版が行われています。作品44と作品66（それぞれ3曲のソナチネを含む）2つのコレクションがアップされ広く知られていますが、へ長調ソナタ作品8bも知っておく価値があります。変奏曲の中では、作品72、75、76、77について言及する必要があります。いずれの場合もテーマはベートーヴェンの歌曲から借用されています。しかし、私は特に死後に出版された2つの作品「Allegro pathétique」Op. 123と「アダージョとロンド」Op. 124に焦点を当てたいと思います。これらは両方とも、クーラウが以前に接触していたパリのファランクによって出版されたもので、この理想主義的な出版社によって彼が最終的に望むように書く機会を得たという事実の優れた例です。23ページにわたるこのアレグロ・パテティックは、シューベルト（クーラウは彼の音楽をほとんど知らなかった）を思い出させますが、まさにクーラウの連弾ピアノ音楽の集大成です。なんとアダージョとロンド Op.124は、私はこれが未完成のソナタの第2楽章とフィナーレではないかと強く疑っています。この方法でのみ、調性の奇妙な並置を説明できます。アダージョは変イ長調で、アレグロはハ短調です。（訳者註：アレグロ・パテティックはハ短調です。）クーラウの現存する作品が、彼自身がほとんど計画していなかった方法で編集され、出版された例は他にもあります。

室内楽

これまで見てきたように、純粋なピアノ音楽に関しては、クーラウは聴きやすく弾きやすい音楽を求める出版社の要求に従わなければなりません。しかし、ピアノとその他の楽器、とりわけフルートの音楽に関しては、これがある程度補うことができました。ここで彼の創造性と獨創性が最大限に発揮されます。クーラウがフルートとピアノのために書いた全 32 曲の中で、特に取り上げたいのは大規模なソナタ作品 64、69、71、85、110 Nr.1-3 です。最後の曲のタイトルページには「Duo brillants」という表記がありますが、それらは実際には通常ソナタと呼ばれるものであり、クーラウ自身も手紙の中でこれらを「3 grosse Sonaten für Pianoforte mit Begleitung einer Violine oder einer Flöte (ヴァイオリンまたはフルートの伴奏を伴うピアノのための3曲の大きなソナタ)」と呼んでいます。(脚註 24)。1830 年の初版にはピアノパートに加えてフルート・パートとヴァイオリン・パートが含まれていますが、後の版はフルートのみのために編曲されています。「Pianoforte mit Begleitung (伴奏を伴うピアノフォルテ)」という言葉で、クーラウはこの時点ですでに時代遅れになっていた呼称を使用していますが、それは決してフルートやヴァイオリンが従属的な役割を果たしていることを意味するものではありません。この2つの楽器はあらゆる点で同等であり、全体としては作品 110 の3曲のソナタは最高の成果として認められています。ウィーンの音楽雑誌『Allgemeine Musikalischer Anzeiger アルゲマイネ・ムジカリッシャー・アンツァイガー』の評論家は、最初のデュオに「輝かしい」という述語を与え、2番目のデュオを「天国」、そして3番目のデュオを「神聖」と評しました。クーラウはまた、ルートヴィヒ・シュポアに捧げられたヴァイオリンとピアノのための非常に優れたソナタ、ヘ短調作品 33 を作曲しています。ヴァイオリンとピアノが同様に、内容と技術の両方とも易しめなのは、1827 年にローセ社から出版された3曲のソナタ作品 79 です。もう一つの最高級の作品として、2本のフルートとピアノのための三重奏曲 作品 119 を挙げなければなりません。バロック以降、このアンサンブルのために作曲した作曲家は他に数人だけであり、オリジナルのタイトルページからは、クーラウが次に続く計画を立てていたことがわかります。ここには「Premier Grand Trio Concertant pour deux Flûtes et Piano」(プルミエ・グランド・トリオ・コンチェルタント・

ドウ・フルート & ピアノ (訳者註: プルミエとは [最初の]、または [第1番の] という意味です。) と書かれています。しかし、クーラウの早すぎる死によりそれは終わりを告げ、ファランク夫妻が注文したヴァイオリン、チェロ、ピアノのためのクラシック・アンサンブルのためのいくつかの三重奏曲を、彼は始めることができませんでした。

最後に3曲のピアノ四重奏曲を述べるだけとなりました。ハ短調 作品 32、イ長調 作品 50、ト短調 作品 108 はすべて、室内楽の最高な作品の一つとして挙げられるに値します。最初の2曲は1823年と1822年に出版されました(作品50、つまり作品32の前年)(訳者註: ダン・フォグの作品目録には作品50は1822年出版、作品32は1821年となっています)。最後の作品は死後1833年に出版されましたが、最初の2作品と同時期に作曲されたという証拠は数多くあります。1820年12月にはすでにクーラウはB&Hに次のように書いている。「この冬、フォルテピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのための3曲の四重奏曲を完成させ、その後貴方の出版社に提供します。」確かにB&Hは作品32を出版しました。しかしクーラウは他の2曲を出版することができませんでした。

ボンのシムロックが作品50を引き受けることになり、クーラウは大幅に減額された料金で契約をしました。「今日の趣味にはファッション作品、ロンドの輝き、気晴らし、ポプリしか含まれていないため、ピアノ四重奏曲はすでに長い間、まともな商品の中に属していない」という理由で最後の四重奏曲の出版は拒否されました。作品108が初めて出版されたのは、1829年にクーラウがサント・ペテルブルクの音楽熱心な商人 Witkowsky ウィトコフスキーからピアノ四重奏曲の注文を受けたときでした。フォグの作品目録には作曲年が1829年と記載されており、クーラウはウィトコフスキー自身に、料金に合意したら作品を始めると伝えていますが、今となってはむしろそれが真実と思われま。彼は未発表のカルテットを隠し場所から見つけ出し、印刷の準備を整えました。この出版を引き受けたのはファランクであり、クーラウは別のカルテットについても話しており、それをファランクの妻であるピアニストのジャンヌ・ルイーゼ・ファランクに捧げる予定であると述べています。しかし、それは遅すぎました。ト短調四重奏曲がついに出版されたとき、クーラウはすでに墓の中にいました。クーラウの健康状態はすでに何年も前から悪化していました。彼は定期的に胸の痛みを訴え、激しい

咳の発作に悩まされていました。おそらく慢性気管支炎が喘息です。1831年の寒い2月の日、自然を愛する作曲家が1826年に移住したLyngby リュンビューの家が全焼し、それによって所有していたものをほぼすべて失ったことに加え、健康状態も悪化しました。ここで最後の休息場所であるフレデリックス病院（現在のブレーデゲゼ（訳者註：通りの名前）にある美術業界博物館）に長期療養後、彼は自分が再び回復したと思い、ちょうどドイツに行く話していたときに、別の大きな海外旅行の計画さえ立てていました。さらに、上に示したように、一連の重大な作曲の注文が彼に新たな勇気を与えました。確かに、すべて未来が明るく幸せに見えることを示していました。しかし、1832年3月13日に彼のドアをノックしたのは、フォルトウナ夫人（訳者註：幸福の女神）の代わりに死神でした。

グリルパルツァーがシューベルトの墓碑に書いた言葉「Der Tod begrub hier einen reichen Besitz, aber noch schönere Hoffnungen」（ここに埋葬された死は豊かな財産ですが、さらに美しい希望です）も、クーラウへの言葉であると考えられます。しかし、記念碑について話すことはほとんどできません。アシステンズ教会墓地にある彼の墓には、比較的簡素な墓石しか見つかっていませんが、これは友人たちの間で集めて苦勞なく入手したものでした。それは音楽のミューズを表していると同様と主張されるレリーフで装飾されていますが、実際には、それはエルンスト・フロイント（訳者註：Ernst Freund ドイツ生まれのデンマークの彫刻家 1786-1840）がギリシャの女詩人サッフォー（脚註 25）を描いたレリーフのコピーです。

追記

何年も前、私はウィルヘルム・ハンセン楽譜出版社に、クーラウの最高のピアノ・ソナタ、つまりソナチネではなく本物のソナタの再発行に興味を持ってもらおうとしました。しかし、そのような出版にかなりのお金がかかるとは思ってもよらず、基金の資金を獲得する試みも無駄でした。この度、全19曲のソナタがついにデンマークでもドイツでもなく、日本で再出版されることになりました。それは、インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会（IFKS）の創設者であり、前述の石原利矩氏であり、彼は独力で、一銭も（というよりは円も）も受け取らずに、コンピュータ上で楽譜入力という膨大な仕事を引き受けたからです。私は完成した結果を見ましたが、とても美しいと断言でき

ます。19曲のソナタは4巻に分かれて編纂され、2012年10月（訳者註：結局出版は12月となりました）にまとめて出版される予定です。



前述したように、クーラウのピアノ・ソナタ（つまりソナチネではありません！）の完全な出版が近づいています。IFKSの石原利矩氏のご厚意により、Op.46 Nr.2の最初のページをここに転載します。11ページに掲載されているオリジナル版と比較してください。

脚注

- 1) この著作は、416ページにわたる私の伝記「Friedrich Kuhlau – ein Deutscher Musiker in Kopenhagen フリードリヒ・クーラウ＝コペンハーゲンのドイツの作曲家」に基づいています。Olms オルムス出版社（ハイデルベルク、チューリッヒ、ニューヨーク）より2011年5月に出版。これについて詳しくは、私のウェブサイト www.josebamus.dk のメニュー項目「クーラウ」の下をご覧ください。ここでは、完全な伝記に加えて、すぐに読める「ミニ伝記」も見つけることができます。作品カタログ、ディスコグラフィ、クーラウ作品検索ガイドなど。（訳者註：残念ながら、このサイトはエーリクセン氏のご病気後見つけることができなくなっています。）
- 2) スウェーデンの情報源によれば、その自筆譜はピアノ・ソナタでしたが、1831年にリュンビューのクーラウの家が火災に見舞われた時焼失しました。
- 3) ハウク宮廷保安官はクーラウをできる限り支援しよう

としました。国王フレゼリック 6 世に対する数多くの嘆願書の一つに関連して、ハウクは「クーラウは才能があり、将来有望な音楽家であり作曲家であるが、彼の財政状況は極めて穏やかであり、経済的困難のため、彼には、すべての芸術作品に必要な精神や陽気がありません。」しかし国王は容赦のない人物でした。デンマークで活躍した偉大な音楽的才能のひとつがあまりにも早く埋もれてしまったという事実、国王が関与したと主張するのは間違いではないでしょう。

4) 父親が軍人として働いていたため、家族は頻りに住居を移さなければなりませんでした。

5) C. J. ボイエの戯曲『ウィリアム・シェイクスピア』(1873) ピアノ・スコアのゲオルク・ブリッカの序文。

6) ダン・フォグ Kompositionen von Fr. Kuhlau. Thematisch-bibliographischer Katalog, 1977。簡潔で完全かつ最新のリストは、以前のリストの補遺としてクーラウの伝記の中で見つけることができます。私のウェブサイト www.josebamus.dk でもご覧いただけます。メニュー項目「クーラウ」です。(訳者註：前述)。

7) Th. オーワースコウ著「デンマークの舞台」、IV、57 ページ (1862 年)。

8) このリンクを使用すると、Kuhlau のページに直接アクセスできます。 <http://www.kb.dk/da/nb/samling/madigmus/1800/kuhlau.html> の詳細なガイダンス。Kuhlau の楽譜の見つけ方は、以前に紹介した以下の Web サイトで見つけることができます。メニュー項目「クーラウ」。(訳者註：前述)。

9) IFKS のウェブサイトのアドレスは <http://www.kuhlau.gr.jp/e/index.html> です。アドレスを入力すると楽譜のページに直接アクセスできます http://www.kuhlau.gr.jp/e/e_about_kuhlau/reading_and_hearing.html。

10) ワイセが友人の J. J. ブンツェンに宛てた手紙 1832 年 3 月 20 日。

11) フランスの作曲家アンリ・ベルトン (1767-1844)。

12) DF は Dan Fog のカタログの番号を指します。作品番号は 127 以下を通してのみ使用されます、その後、追加の DF と番号付けが続きます。

13) Th. オーワースコウ著「デンマークの舞台」IV、187 ページ。

14) しかし、これが『Elverhøj』(1828) に初めて取り上げ

られた考えるのは間違いです。「クリスチャン王」という形では現在歌われていますが、これはすでに王立劇場に匿名で提出された作品に登場しているためです。作品『友人の饗宴、あるいは遺言』(1826 年)、スコアはまだ存在しており、すべてがそれを示しています このバージョンはルートヴィヒ・ツィンクが劇場のために編曲した音楽『クリスチャン四世の審判』(1822) に遡るということ - 楽譜はもう存在しません。Torben Krogh トーベン・クロー：『音楽と演劇』「クリスチャン王のメロディー」(1955 年) 111-123 ページを参照のこと。

15) この全体の話は、王立図書館の年鑑「調査結果と研究」第 22 巻、1975～1976 年の中の私の記事「1819 年の戴冠式デンマーク国歌」177～202 ページで詳しく説明されています。この記事は、以前に紹介した私の Web サイトでも読むことができます。(訳者註：前述)。

16) 前述の Web サイトのメニュー項目 Kuhlau/Discography を参照してください。(訳者註：前述)。

17) このテーマはパガニーニのヴァイオリン協奏曲第 1 番 作品 6 第 3 楽章に由来しています。

18) この主題はパガニーニのヴァイオリン協奏曲第 2 番 作品 7 第 3 楽章に由来しています。

19) このテーマはフランスのヴァイオリニスト兼作曲家 Pierre Rodes ピエール・ロード (1774-1830) ヴァイオリン協奏曲 第 9 番 作品 9 の最終楽章に由来しています。

20) 前述したクーラウの教え子で、イーテボリに定住し、そこで働いていました。コンサート・ピアニスト、ピアノ講師。

21) Op. 92 は Elverhøj と同じ年に出版されており、メロディーは戯曲で使われと同じ形態です。脚註 13 も参照のこと。

22) Søren Sønnichsen (1765-1826) はデンマーク初の本格的な楽譜出版者で、以前、彼は 1795 年から 1808 年にかけて「アポロ」と名付けた音楽定期刊行物に挑戦しました (全 6 巻で出版されました)。またクラウス・シャルは「北国のアポロ」と呼ばれる定期刊行物を発行していました (1805 年から 1809 年の 4 年間に出版しました)。

23) これらの月刊誌の内容の完全なリストは Jørgen Erichsen 編集の「デンマークの定期音楽出版物の索引」1795～1841 年、オーフス市立図書館発行 1975 年、でご覧いただけます。

24) 1829 年 12 月初旬、ブレーメンの W. C. ミュラーに宛てた手紙。

25) 1812 年のオリジナルは Glyptoteket(訳者註：コペンハーゲンにあるグリプトテク美術館) で見るすることができます。

著者について：

ヨーアン・エーリクセンは 1935 年オーデンセ生まれ。オーフス大学で音楽学の修士号を取得 1962 年。1963 年から 1970 年までシルケボアの Th. Langs Gymnasium で教師。オーフス市立図書館に勤務して以来デンマーク「黄金時代の音楽」を研究し、2011 年に『フリードリヒ・クーラウ・あるコペンハーゲン在住のドイツ人音楽家』という著書を発表した。教会音楽を中心に作曲家としても活動。

www.josebamus.dk

(デンマーク語翻訳：石原利矩)

IFKS 版のピアノ曲集も間もなく絶版になる時期を迎えています。再販されるかどうかは思慮深いピアニストの今後の活動にかかっています。



「Kuhlau のアンサンブル曲をフルート二重奏で」

Paul Wagner 編曲

クーラウの DUO 以外のフルート・アンサンブルには TRIO, QUARTETTO, QUINTETTO があります。それには 3 フルート、4 フルート、2 フルートと Piano、フルートと弦楽器 (4 挺) があります。

これらの全ての曲をフルート 2 本の形で演奏できるように編曲したのが Paul Wagner (1805-1871) です。残念ながら編曲者の P. ワグナーについての経歴は不明です。しかし、彼はフランス/パリの楽譜出版社オーラニエ Aulagnier から大量の編曲作品を出版しています。その中にはモーツァルトや ベートーヴェンの弦楽四重奏を Piano Solo にしたりまたは、フルート・ヴァイオリン・チェロ・ピアノの四重奏に編曲したものが含まれます。そのほか当時有名になったオペラ作品の編曲が多数あります。Anton Aulagnier (1800-1892) はフランスの作曲家、出版業者で Louis Cresson-Duval, A. Farrenc, Castil-Blaze and Romagnesi 社を引き継ぎ、1826 年に開業し、1866 年 Sylvain Saint -Etienne 社に権利を譲渡しました。主にダンス音楽や声楽曲が中心で当時台頭したブルジョアジーの要求に合わせた作品を提供した出版社と想像されます。今回、IFKS 会報に取り上げたのが作品 90 (Flute Trio), 作品 119 (2 Flutes & Piano), 作品 103 (Flute Quartetto) の 3 曲で紙面の都合で 1 ページに 4 ページを縮小して掲載しましたが、実際の 4 A の大きさのページは IFKS ホームページからダウンロードしていただくことにいたしました。会報には載せられなかった作品 51 (Quintetto/Fl. Vn. 2 Va. Vc) の 3 曲も同じ箇所アップしますのでご利用ください。多人数のアンサンブルを二人で演奏するというアイデアは冒険的ですが、今までと変わった面白さを味わえます。P. ワグナーのオリジナル楽譜はパート譜 (1 段譜) なので二重奏の楽譜 (2 段譜) にしてみるとアーティキュレーションやスタッカートやアクセントの位置が異なっている箇所があるのがわかります。たまに削除した小節もありますが、これは皆様のお持ちの楽譜と照らし合わせて見てください。なお以上の 6 曲の楽譜はアドリアン氏に教示していただいたものです。その他カタログ上では P. ワグナーは作品 13 の Trio も二重奏に編曲していることになっていますが、今のところ手元にありませんが、入手できたらホームページにてお知らせします。

Kuhlau's flute ensembles other than DUO include TRIO, QUARTETTO, and QUINTETTO. These include 3 flutes, 4 flutes, 2 flutes and piano, and flute and strings (4 instruments). Paul Wagner (1805-1871) arranged all of these pieces for two flutes. Unfortunately, the background of the arranger P. Wagner is unknown. However, he published a large number of arrangements from Aulagnier, a music publisher in Paris, France. These include string quartets by Mozart and Beethoven arranged for solo piano, or for flute, violin, cello, and piano quartets. He also arranged many operas that were famous at the time. Anton Aulagnier (1800-1892) was a French composer and publisher. He took over the company Louis Cresson-Duval, A. Farrenc, Castil-Blaze and Romagnesi, which he established in 1826 and transferred the rights to Sylvain Saint-Etienne in 1866. It is thought that the publisher mainly produced dance music and vocal music, and provided works that met the demands of the emerging bourgeoisie at the time. The three pieces featured in the IFKS newsletter this time are Op. 90 (Flute Trio), Op. 119 (2 Flutes & Piano), and Op. 103 (Flute Quartetto). Due to space constraints, we have reduced the number of pages to one, but the actual A 4 size pages can be downloaded from the IFKS homepage. The three pieces from Op. 51 (Quintetto/Fl. Vn. 2 Va. Vc) that were not included in the newsletter will be uploaded also in the same place, so please use them. The idea of two people playing a large ensemble is adventurous, but it is interesting and different from what we play normally. P. Wagner's original score is a part score (one system), so when you look at the duet score (two systems), you will see that there are some parts where the articulation, staccato, and accent positions are different. There are also some bars that have been deleted, but please check this against the scores you have. The scores for the above six songs were provided to us by Mr. András Adorján. In addition, the catalog says that P. Wagner also arranged the Trio from Op. 13 as a DUO, but we do not have it at hand at the moment, but we will let you know on the website when we get it.

Op.90bis

TROIS DUO

Original: 3 Flutes

F. Kuhlau Op.90.bis

Paul Wagner

Allegro non tanto

I

p *con espressione*

p

mf *pp* *mf* *pp* *mf*

cresc. *f con fuoco* *f con fuoco*

p *cresc. poco a poco*

dim. *dim.* *p*

espressivo *cresc. poco a poco*

cresc. poco a poco

f *f*

- 3 -

pp *pp*

cresc. *p dolce* *p*

mf

pp *f risoluto* *f risoluto*

p *f*

cresc. *sf* *pp* *f con fuoco*

sf *pp* *f con fuoco*

ff *ff*

p *con espressione* *pp*

- 4 -

- 2 -

p cresc. poco a poco
p cresc.
p
p
fp
f
dolce
p

cresc.
f
p
f
p con espress.
p

p
cresc.
p dolce

p
con espress.
pp
mf
pp
mf
f

pp cresc. dolce
pp cresc. dolce
mf
p f risoluto
pp
p cresc. poco a poco
f dim.
p espressivo

- 9 -

pp f con fuoco
ff
p dolce smorz.
p smorz.

- 11 -

cresc. poco a poco
f
tr
p dolce
f cresc. f

- 10 -

SCHERZO
Allegro molto
II f
p
cresc. cresc. p
f p smorz.
mf

- 12 -

TRIO

Adagio

p *cresc.* *dim.* *p*
p dolce
smorz.

Allegro poco agitato

IV

p *p*

p
f *p*
cresc. *f con allegrezza*
cresc. *f con allegrezza*
p
f *f*

pp *cresc.*
p *a tempo*
cresc. *pp rit.*
f
cresc. *f*
f con fuoco

p
cresc. *cresc.*
f *p dolce*
f *p*
cresc. *cresc.*
p *cresc.* *f*
dim.
p leggero

Musical score for page 21, featuring piano and violin parts. The score includes various dynamics such as *f marcato*, *p*, *smorz.*, *a tempo*, and *pp*. It also features articulations like *accresc.* and *dim.*.

- 21 -

Musical score for page 22, continuing the piano and violin parts. The score includes dynamics such as *pp*, *f*, *cresc.*, *assai*, *f*, *dim.*, *accelrando*, and *a tempo*.

- 22 -

Musical score for page 23, featuring piano and violin parts. The score includes dynamics such as *cresc.*, *f*, *p dolce*, *p*, *cresc.*, *p*, *cresc.*, *f*, *dim.*, *f*, *dim.*, *p*, *leggiere*, *p*, *leggiere*, *f con fuoco*, and *f con fuoco*.

- 23 -

Musical score for page 24, continuing the piano and violin parts. The score includes dynamics such as *p dolce*, *p dolce*, *cresc.*, *f*, *f*, and *p*.

- 24 -

Op.119 bis

Original: 2 Flute and Piano

TROIS DUO

F. Kuhlau Op.119.bis

Paul Wagner

Allegro moderato

I

p dolce
p
p dolce
con gracia
con gracia

dim.
dim.
cresc.
cresc.
f
f
dim.

この小節削除

p
p dolcissimo
fp
dim.
p dolcissimo
p
f
f
p

dim.
dim.
f
f
p
f
p

Musical score for page 5, left column. It consists of six systems of two staves each. The music features various dynamics including "cresc.", "f", "p", and "dim.". There are also markings for "p dolce" and "dim.".

- 5 -

Musical score for page 5, right column. It consists of six systems of two staves each. The music features various dynamics including "f", "p", "p dolcissimo", and "dim.". There is also a marking for "tr".

- 7 -

Musical score for page 6, left column. It consists of eight systems of two staves each. The music features various dynamics including "f", "p", and "dim.".

- 6 -

Musical score for page 6, right column. It consists of eight systems of two staves each. The music features various dynamics including "f", "p", "p dolce", and "dim.".

- 8 -

Adagio patetico

II

mf
mf
p
f con affetto
f con affetto
p
p
f
p
f
p

f
p
p
f
p
cresc.
f
rit.
a tempo
p
mf
p espress.

mf
mf
f
p
p
pp smorzando
Allegro
p leggiero
p leggiero
f
p leggiero
f

f
f
f
f
f
p
f
p
p
f
f
f
p
f
p
f

Musical score for page 13, measures 1-12. The score consists of two staves (treble and bass clef) with various musical notations including notes, rests, and dynamic markings.

- 13 -

Musical score for page 14, measures 1-12. The score consists of two staves (treble and bass clef) with various musical notations including notes, rests, and dynamic markings.

- 14 -

Musical score for page 15, measures 1-12. The score consists of two staves (treble and bass clef) with various musical notations including notes, rests, and dynamic markings.

- 15 -

Musical score for page 16, measures 1-12. The score consists of two staves (treble and bass clef) with various musical notations including notes, rests, and dynamic markings.

- 16 -

Musical score for page 17, consisting of six systems of two staves each. The score includes various dynamics such as *f*, *ff*, and *p con espress.*. The music features complex rhythmic patterns and melodic lines.

Musical score for page 19, consisting of six systems of two staves each. The score includes dynamics such as *dim.*, *f*, *rit.*, *sf*, and *p*. The music features complex rhythmic patterns and melodic lines.

Musical score for page 18, consisting of six systems of two staves each. The score includes dynamics such as *pp*, *cresc.*, *p dolce*, and *f*. The music features complex rhythmic patterns and melodic lines.

Musical score for page 20, consisting of six systems of two staves each. The score includes dynamics such as *sf*, *dim.*, *p*, and *f*. The music features complex rhythmic patterns and melodic lines.

Op.103bis

TROIS DUO

Original: 4 Flutes

F. Kuhlau Op.103.bis

Paul Wagner

Andante maestoso

I

f *p dolce* *cresc.* *pp* *mp* *p*

p dolce *dim.*

- 3 -

Allegro assai con molto fuoco

p *sf p* *cresc.* *f* *sf con fuoco*

p dolce *delicato* *pp* *cresc.* *mf*

- 2 -

- 4 -

Musical score for page 5, left column. It consists of six systems of two staves each. The music features complex rhythmic patterns and dynamic markings such as *p*, *cresc.*, and *f*.

- 5 -

Musical score for page 6, left column. It consists of six systems of two staves each. The music continues with complex rhythmic patterns and dynamic markings such as *p*, *cresc.*, *f*, and *p dolce*.

- 6 -

Musical score for page 7, right column. It consists of six systems of two staves each. The music features complex rhythmic patterns and dynamic markings such as *con espress.*, *cresc.*, *f*, and *dolce*.

- 7 -

Musical score for page 8, right column. It consists of six systems of two staves each. The music continues with complex rhythmic patterns and dynamic markings such as *cresc.*, *f*, and *sf*.

- 8 -

Musical score for page 9, left column. It consists of six systems of two staves each. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a common time signature. Dynamics include *p*, *p*, *p*, *p*, *sf p*, and *p*. Performance markings include trills and accents.

- 9 -

Musical score for page 10, left column. It consists of six systems of two staves each. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a common time signature. Dynamics include *ff*, *p*, *p*, *pp*, and *mf*. Performance markings include trills and accents.

- 10 -

Musical score for page 11, right column. It consists of six systems of two staves each. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a common time signature. Dynamics include *p*, *p*, *p*, *p*, *p*, and *p*. Performance markings include trills and accents.

- 11 -

Musical score for page 12, right column. It consists of six systems of two staves each. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a common time signature. Dynamics include *sf*, *f con fuoco*, *sf*, *sf*, *sf*, and *sf*. Performance markings include trills and accents.

- 12 -

SCHERZO Allegro assai

II

f

f

f

f

f

TRIO I

p dolce

p

mf

mf

p

dim.

p

cresc.

f

CODA

p

Scherzo D.C.
senza replica

p

mf

f

mf

f

p

cresc.

TRIO II

p

cresc.

p

cresc.

Adagio molto con espressione

III

p

p

cresc.

cresc.

dolce

p

Musical score for page 17, consisting of two staves. The music includes various rhythmic patterns, slurs, and dynamic markings such as *p* and *f*.

- 17 -

Musical score for page 19, consisting of two staves. The music includes slurs, dynamic markings such as *cresc.*, *p*, and *smorzando*, and a trill (*tr*) in the final measure.

- 19 -

Musical score for page 18, consisting of two staves. The music includes slurs, dynamic markings such as *p*, *f*, and *con molto espressione*.

- 18 -

Allegro assai

IV

Musical score for page 20, consisting of two staves. The music includes slurs, dynamic markings such as *p*, *cresc.*, and *f*, and a trill (*tr*) in the final measure.

- 20 -

Musical score for page 21, featuring piano and violin parts. The score includes dynamic markings such as *f con fuoco*, *f*, and *sf*. The piano part has a melodic line with slurs and accents, while the violin part provides a rhythmic accompaniment.

- 21 -

Musical score for page 22, featuring piano and violin parts. The score includes dynamic markings such as *f marcato*, *sf*, *dim.*, and *p*. The piano part continues with a melodic line, and the violin part has a steady rhythmic pattern.

- 22 -

Musical score for page 23, featuring piano and violin parts. The score includes dynamic markings such as *f marcato* and *p*. The piano part has a melodic line with slurs, and the violin part provides a rhythmic accompaniment.

- 23 -

Musical score for page 24, featuring piano and violin parts. The score includes dynamic markings such as *p* and *cresc.*. The piano part has a melodic line with slurs, and the violin part provides a rhythmic accompaniment.

- 24 -

- 25 -

- 26 -

- 27 -

- 28 -

Paul Wagner の編曲作品

作品 90 (Flute Trio) 会報掲載 DUO 譜・縮小版

作品 119 (2 Flutes & Piano) 会報掲載 DUO 譜・縮小版

作品 103 (Flute Quartetto) 会報掲載 DUO 譜・縮小版

作品 51-3-1 ((Flute Quintetto) 会報未掲載

作品 51-3-2 ((Flute Quintetto) 会報未掲載

作品 51-3-3 ((Flute Quintetto) 会報未掲載

各曲に 4 種類の楽譜を掲載しています。必要なものをダウンロードして印刷して演奏にご活用ください。

Original+ DUO = 原曲に Wagner の編曲を並記します。Wagner の編曲がどのように行われたかがよく解ります。

DUO = Wagner の編曲したものを 2 段の五線で

Flute I = ファーストパートのみ

Flute II = セカンドパートのみ

IFKS ホームページ <http://www.kuhlau.gr.jp>

◆2024.5.18の静岡市・札の辻クロスホールでの定期演奏会に出演して下さったピアニストさんにインタビューしてみました。

〈4つの質問〉

- ①演奏会に出演して
- ②クーラウという作曲家について
- ③お客様の感想
- ④もしあなたがクーラウだけでリサイタルをしたらどのようなプログラムで行いますか？



小澤 実々子
(会員番号 456)



①演奏会に出演して

東京での演奏会は公開録音ということで、いつもとちがう緊張感がありました。この演奏が記録として残るのだと考えると身体が固くなってしまい、レコーディングの大変さを痛感しました。東京、静岡ともにスタッフの方々のサポートやお客様の温かい雰囲気助けられ、演奏に集中できたことに感謝いたします。また、大学時代からの恩師と連弾で舞台に立てたことはとても光栄でした。ソロでは大きなソナタに取り組むことができ、大変貴重な機会をいただけたと感じています。

②クーラウという作曲家について

これまでは"教育用"の作品を書いた真面目な作曲家というイメージを持っていましたが、実は遊び心に富んだ作曲家なのだと感じました。

③お客様の感想

ソナチネ以外の作品にも素敵なのがたくさんあると知ることができた、弾きごたえのありそうな曲ばかりで、演奏家に取り組むべき作品があると感じた、との感想をいただきました。

④もしあなたがクーラウだけでリサイタルをしたらどのようなプログラムで行いますか？

クーラウといえばこれ！である〈三つのソナチネ Op.20〉をあえて入れて、〈ソナタ Op.30〉、〈ソナタ Op.46-2〉、〈鐘ーパガニーニの主題による Rondó〉などでプログラムを組んでみたいと思います。



木村 七重
(会員番号 457)



①演奏会に出演して

公開録音というプレッシャーもありましたが、自分にとっては大変収穫のあった演奏会でした。

普段ですと、音源を聴いて参考にすることもあります。今回演奏する曲は、ほとんど音源もないため一切聴かずにクーラウの音楽を奏することに挑みました。

私が演奏した作品は、同じフレーズが何度もでてきますが、語られる音楽が心地よく、そして新鮮な気持ちで聴いていただけるよう、また自分自身も、そのような気持ちで演奏することを意識しながら作品と向き合いました。

東京での公演を動画でアップしていただいたので、クーラウを知っていただくきっかけになればと思っております。

②クーラウという作曲家について

以前は、クーラウといえばソナチネしか知らない私でしたが、フルートの伴奏をするようになり、クーラウの作品に触れることが多くなりました。自分が知っているクーラウとはかけ離れており、楽譜を見ると音がお行儀よくぎゅしりと並んでいます。なんと忙しいことか！！と、フーフーしている私に、このくらい軽々弾いてくれないとね、なんてクーラウの声が聞こえてくるようです。かと思えば、とても美しい旋律もあり、優しい歌声も聴こえてきます。

今回ワルツ様式の6曲のディベルティメントから、I、IIIを演奏しましたが、そこでの左手の伴奏形、メロディーのリズミカルな歌い方がロマン派っぽいなと感じ、気になって調べたところ、初期ロマン派と記しており、クーラウは古典派とばかり思っていた私にとって大変な衝撃でした。

実際にクーラウは前衛的な人でありデンマークやスウェーデンなどの北欧民謡を自作に取り入れ作曲し、北欧国民楽派の先駆けと言える役割も果たしています。私が知っていたソナチネのクーラウは、好奇心溢れるお方だったのですね。

③お客様の感想

クーラウという作曲家にフォーカスし、ピアニスト4人でそれぞれ演奏するスタイルは大変珍しかったようです。

石原先生のレクチャー付きで様々な作品を聴けたことが大変良かったというお言葉や、親しみやすい曲が多く、クーラウの新たな面を知ることができ楽しめた、という感想がありました。

④もしあなたがクーラウだけでリサイタルをするとしたらどの様なプログラムで行いますか？

クーラウは、モーツァルトを好んでいたということから、前半は「ピアノフォルテのための愛好されたオペラのメロディによる3曲の易しい Rond、Op.56」そしてデンマークのメロディをふんだんに取り入れた「～コペンハーゲンの魅力～ デンマークのメロディによる Rond、Op.92」後

半では、2楽章の旋律が大変美しい「ソナタ Op.5a」そして最後は「フルート、チェロとピアノのための協奏的三重奏曲 Op.119」としたいと思います。



後藤 友香理
(会員番号 457)

①演奏会に出演して

今回、東京と静岡で2回公演があったため、1回目の反省を生かすことができたり、違う会場での響きの違いを楽しんだりすることができて、良い経験になりました。1回目ではピティナさんに録音・録画もしていただけて、いつもの本番とはまた違う緊張感が味わえて新鮮でした。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

②クーラウという作曲家について

私が演奏したピアノ四重奏曲ハ短調は、ベートーヴェンの影響を感じさせる部分はもちろんですが、メンデルゾーンを彷彿とさせる箇所があったり、オペラっぽい場面があったりして、クーラウのいろいろな面を探す楽しさがありました。あの曲は、きっとクーラウ自身も力を入れて書いた自信作だったのではないかと思います。

③お客様の感想

当日は私の勤め先の学生が何人か来てくれたのですが、ピアニストごとに音色、表情、動きなどが違うことに皆驚いていました。そういう意味でも、ピアニストが入れ替わり立ち代わり同じ作曲家の曲を演奏していく今回の演奏会は、おもしろい趣向だったのではないかと思います。


第25期インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会決算書

第25期(2023年9月1日～2024年8月31日)

	項 目	内 容	金 額	
収入の部	IFKS 年会費	25期	979,000	
	定期演奏会チケット	1/30第36回ピティナ	48,600	
	定期演奏会チケット	5/18第37回静岡	246,780	
	楽譜販売	IFKS 楽譜人魚の涙	253,491	
	楽譜販売	IFKS・Syrinx楽譜他	87,488	
	銀行利息		54	
	収入合計		1,615,413	
支出の部	通信費	郵便局・ヤマト運輸	322,266	
	制作費	IFKS 会報24号作成	116,528	
	謝礼	1/30第36回ピティナ	350,000	
	謝礼	1/30第36回ピティナ	39,000	
	謝礼	5/18第37回静岡	294,000	
	ホール使用料	札の辻ホール・練習室	121,737	
	制作費	5/18第37回チラシ他	17,690	
	飲食費	5/18飲食代	50,916	
	駐車料金	5/18打合せのため	1,800	
	交際費	ご挨拶、お礼	1,700	
	貸し倉庫使用料	第25期	160,507	
	翻訳料	ドイツ語→日本語	100,000	
	飲食費	IFKS 会報24号作成	2,084	
	事務用品費	事務用品	13,385	
	会議費	理事会	16,830	
	交通費	楽譜搬送、その他	66,496	
	振込手数料		3,905	
		支出合計		1,678,844
		前期繰越		1,866,029
	次期繰越		1,802,598	

私は、以上に記載されているインターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会の2023年9月から2024年8月までの収支決算について、会計帳簿およびその証拠書類並びに預金通帳の監査をいたしました。そのいずれにおいても上記記載のとおりであり、適正に処理されていることを報告いたします。

2024. 9. 30

河野洋子 

隠れた名曲をフルートで 「人魚の涙」 曲集 第1巻～第6巻

各 2000 円 (税込)

「人魚の涙」曲集 巻別索引

巻	順	作曲家	作品名	Piano	Flute
第1巻	1	Kuhau, Friedrich	Andantino grazioso Op.46-3-II	6~10	2~3
	2	Simonetti, Achille	Moment musicale	11~14	4~5
	3	Chaminade, Cécile	Capriccio Op.18	15~22	6~8
	4	Drdla, Franz	Berceuse Op.56	23~26	9
	5	Ernst, Heinrich Wilhelm	Élégie Op.10	27~31	10~11
	6	Kuhlau, Friedrich/Ishihara	Lulu Suite Nr.1 Lulu und gefangene Sidi	32~36	12~13
	7	Mozart, Wolfgang Amaderus	Rondo KV.494	37~47	14~17
	8	Reinecke, Carl	Romance Op.3-1	48~52	18~19
	9	Sauret, Émile	Le Matin Op.50	53~56	20~21
	10	Schubert, Franz	Moment musical No.2 Op.94-2	57~61	22~23
	11	Spohr, Louis	Barcarole Op.135-1	62~67	24~25
	12	Noblot, Emil	Promenade dans Granade	68~77	26~29
	13	Ganne, Louis	Invocation	78~81	30
	14	Grieg, Edvard	Poème érotique Op.43-21	82~83	31

第2巻	1	Haydn, Joseph	Adagio und Cantabile Op.9-2	6~9	4~5
	2	Lange, Gustav	Flower Song Op.39	10~14	6
	3	Kuhlau, Friedrich/Ishihara	Lulu Suite Nr.2 Gesang der spinennde Hexen	15~17	7
	4	Bloch, Ernest	Prayer	18~21	8~9
	5	Drdla, Franz	Frühlings Serenade Op.37-2	22~28	10~11
	6	Dvořák, Antonín	Rondo Op.94	29~40	12~15
	7	Gillet, Ernst	Madrigal	41~44	16~17
	8	Boisdeffre, René de	Prélude en Forme de Canon Op.15-1	45~48	18~19
	9	Ernst, Heinrich Wilhelm	Feuillet d'Album	49~52	20
	10	Mascagni, Pietro/Köhler, Ernesto	Potpurri "Cavalleria Rusticana"	53~63	21~23
	11	Massenet, Jules	Aragonaise from "Le Cid"	64~67	24~25
	12	Raff, Joachim	Pastorale Op.85-2	68~73	26~27
	13	Rimsky-Korsakov, Nikolai	Serenade Op.37	74~79	28~29
	14	Tchaikovsky, Pyotr	Chant sans paroles Op.2-3	80~83	30~31

第3巻	1	Kuhlau, Friedrich/Keyper, Anton	Adagio ma non troppo Op.51-1-III	6~13	4~5
	2	Hauser, Miska	Pensée fugitive	14~17	6
	3	Haydn, Joseph	Allegro moderato	18~26	7~9
	4	Godard, Benjamin	Adagio pathétique Op.128-3	27~31	10~11
	5	Beethoven, Ludwig van	Allegretto scherzando from Symphony No.8-II	32~37	12~13
	6	Boisdeffre, René de	Sérénade Op.5	38~43	14~15
	7	Casella, Alfred	Siciliana Op.35-6	44~46	16
	8	Cui, César	Valse mélancolique	47~49	17
	9	Génin, Paul-Agricole	Melodies-Schubert Op.12-6	50~61	18~22
	10	Svendsen, Johan Severin/Andersen	Andante funébre JSV92	62~64	23
	11	Heller, Stephen/Ernst H. Wilhelm	Passé	65~69	24~25
	12	Hubay, Jenö	Berceuse Op.74-2	70~74	26~27
	13	Kuhlau, Friedrich/Ishihara	Lulu Suite Nr.3 Pastoral Op.65	75~77	28~29
	14	Mussorgsky, Modest	Tuileries from "Pictures at Exhibition"	78~79	30
	15	Zlatev-Tcherkin, Georgi	Pastorale	80~83	31

巻	順	作曲家	作品名	Piano	Flute
第4巻	1	Saint-Saëns, Camille	Sérénade Op.16-2	6~10	4~5
	2	Boisdeffre, René de	Sérénade mystérieuse Op.19-5	11~13	6~7
	3	Casella, Alfredo	Barcarola	14~19	8~9
	4	Cherubini, Luigi	Ave Maria	20~23	10
	5	Ilynsky, Alexander	Berceuse	24~26	11
	6	Delibes/Taffanel	Valse lente from "Sylvia"	27~35	12~14
	7	Neruda, Franz	Berceuse Slave Op.11	36~38	15
	8	Field, John	Nocturen No.1	39~43	16~17
	9	Kuhlau, Friedrich/Ishihara	Lulu Suite Nr.4 Lulu und Barca	44~50	18~19
	10	Grieg, Edvard	Berceuse Op.38-1	51~53	20
	11	Chopin, Frédéric	Romanze Op.11-II from Piano Concerto No.2	54~60	21~23
	12	Siberius, Jean	Romance Op.78-2	61~63	24
	13	Tchaikowsky, Pyotr	Bluebird and Princess Florisse	64~67	25
	14	Drdla, Franz	Sehensucht Op.228	68~73	26~27
	15	Mercadante, Saverio	Salve Maria	74~79	28~29
	16	Kuhlau, Friedrich	Cantabile Op.5a-II	80~87	30~31

新5巻	1	Kuhlau, Friedrich/Ishihara	Lulu Suite Nr.5 Lulus liebes Lied	6~8	4
	2	Bizet, Georges	Aria from "Carmen"	9~13	5
	3	Bohm, Carl	Cantilena	14~17	6
	4	Henselt, Adolph von	Wiegenlied	18~21	7
	5	Mendelssohn, Felix	Gondolier's Song	22~23	8
	6	Saint-Saëns, Camille	Introduction and Rondo capricioso	24~41	9~14
	7	Kjerulf, Halfdan	Spring Song Op.28-5	42~46	15
	8	Hubay, Jenő	Barcarolle Op.79-1	47~49	16
	9	Schumann, Robert	Abendlied	50~51	17
	10	Godard, Benjamin	Au matin Op.83	52~56	18~19
	11	Mussorgsky, Modest Petrovich	Ballet des poussins dans leurs coques	57~59	20
	12	Gillet, Ernest	Sérénade lointaine	60~64	21~22
	13	Boisdeffre, René de	Élégie Op.19-4	65~68	23
	14	Tchaikowsky, Pyotr	Troikafahrt Op.37-11	69~73	24~25
	15	Kuhlau (Onslow)/Ishihara	Introduzione und Rondo Op.96 bis	74~91	26~31

第6巻	1	Kuhlau, Friedrich	Adagio sostenuto Op.51-3-III	6~11	4~5
	2	Schubert, Franz	Andante from "Rosamunde" Op.29-II	12~19	6~7
	3	Simonetti, Achille	Gavotte	20~25	8~9
	4	Cui, César	Barcarolle Op.81	26~33	10~11
	5	Sauret, Émile	Chant de Printemps Op.28-5	34~38	12~13
	6	Borodin, Aleksandr	Notturmo from String Quartetto No.2-III	39~47	14~16
	7	Bruckner, Anton	Erinnerung WAB117	48~51	17
	8	Haydn, Joseph	Andante "The Clock" from Symphony No.101	52~61	18~20
	9	Drdla, Franz	Love Song Op.102	62~65	21
	10	Dvořák, Antonín	Song to the Moon from "Rusalka"	66~70	22~23
	11	Dvořák, Antonín	Song of Fairies from "Rusalka"	71~75	24~25
	12	Henselt, Adolph von	Valse mélancolique	76~81	26~27
	13	Kuhlau, Friedrich/Ishihara	Lulu Suite Nr.6 Sidis Bravura Aria	82~95	28~31

シリンクス社の出版物 ユルツェン・クーラウ・エディション(全62冊)

Publication of Syrinx Co. Die Uelzener Kuhlau-Edition

	Op.	Work	UEKE Nr	Price (EUR)
1	10a_1	Duo e-moll Op.10a-1 (2 Score)	41	20
2	10a_2	Duo D-Dur Op.10a-2 (2 Score)	61	20
3	10a_3	Duo G-Dur Op.10a/3 (2 Scores)	22	16
4	10b	Variation et Solos	62	21
5	13_1	Trio D-Dur Op.13/1 (Score & 3 Parts)	11	24
6	13_2	Trio g-moll Op.13/2 (Score & 3 Parts)	28	23
7	13_3	Trio F-Dur OP.13/3 (Score & 3 Parts)	19	23
8	38_1	Fantasie D-Dur Op.38/1 (Solo)	13	16
9	38_2	Fantasie G-Dur Op.38-2 (Sclo)	39	16
10	38_3	Fantasie C-Dur Op.38-3 (Sclo)	55	16
11	39_1	Duo e-moll Op.39/1 (2 Scores)	12	21
12	39_2	Duo B-Dur Op.39-2 (2 Score)	38	22
13	39_3	Duo D-Dur Op.39-3 (2 Score)	47	24
14	51_1	Trio Brillant D-Dur Op.51/1bis (Score & 2 Parts)	25	33
15	51_3	Quartett A-Dur Op.51/3bis (Score & 4 Parts)	23	31
16	57_1	Grand Solo F-Dur Op.57/1 (Solo & Piano)	30	19
17	57_2	Grand Solo a-moll Op.57/2 (Solo & Piano)	17	20
18	57_3	Grand Solo G-Dur Op.57/3 (Solo & Piano)	20	19
19	63	Euryanthe Var.Op.63 (Solo & Pf.Score)	18	20
20	64	Sonate Es-Dur Op. 64 (Solo & Pf.Score)	46	26
21	68_1	Divertissement G-Dur Op.68/1 (Solo & Piano)	33	17
22	68_2	Divertissement Es-Dur Op.68/2 (Solo & Piano))	45	17
23	68_3	Divertissement H-Dur Op.68/3 (Solo & Score)	26	17
24	68_4	Divertissement Es-Dur Op.68/4 (Solo & Piano)	48	17
25	68_5	Divertissement G-Dur Op.68-5 (Solo & Piano)	36	17
26	68_6	Divertissement cis-moll Op.68/6 (Solo & Piano)	4	17
27	69	Sonate G-Dur Op.69 (Solo & Pf.Score)	53	21
28	71	Sonate e-moll Op.71 (Solo & Pf.Score)	40	26
29	80_1	Duo G-Dur Op.80/1 (2 Scores)	57	20
30	80_2	Duo C-Dur Op.80/2 (2 Scores)	32	20
31	80_3	Duo e-moll Op.80/3 (2 Scores)	3	19
32	81_1	Duo D-Dur Op.81-1 (2 Score)	52	19
33	81_2	Duo F-Dur Op.81-2 (2 Score)	44	18
34	81_3	Duo g-moll Op.81/3 (2 Scores)	8	17
35	83_1	Sonate G-Dur Op. 83-1(Solo & Pf.Score)	49	26
36	83_2	Sonate C-Dur Op. 83/2 (Solo & Pf.Score)	34	25
37	83_3	Sonate g-moll Op. 83/3 (Solo & Pf.Score)	58	25

シリンクス社の出版物 ユルツェン・クーラウ・エディション(全62冊)

Publication of Syrinx Co. Die Uelzener Kuhlau-Edition

	Op.	Work	UEKE Nr	Price (EUR)
38	85	Sonate a-moll Op.85 (Solo & Pf.Score)	14	27
39	86_1	Trio e-moll Op.86/1 (Score & 3 Parts)	15	26
40	86_2	Trio D-Dur Op.86/2 (Score & 3 Parts)	7	26
41	86_3	Trio Es-Dur Op.86/3 (Score & 3 Parts)	24	26
42	87_1	Duo A-Dur Op.87-1 (Score)	54	26
43	87_2	Duo g-moll Op.87-2 (Score)	35	24
44	87_3	Duo D-Dur Op.87-3 (Score)	50	24
45	90	Grand Trio h-moll Op.90 (Score & 3 Parts)	1	25
46	94	Le Colporteur-Variationen Op.94 (Solo & Piano)	60	20
47	95_1	Fantasie G-Dur Op.95/1 (Solo & Piano)	9	18
48	95_2	Fantasie e-moll Op.95/2 (Solo & Piano)	42	18
49	95_3	Fantasie D-Dur Op.95/3 (Solo & Piano)	51	18
50	98(a)	Introduktion & Rondo Op.98a (Solo & Pf.Score)	10	17
51	99	Le Colporteur-Variationen Op.99 (Solo & Piano)	43	19
52	101	Jessonda-Variationen Op.101 (Solo & Pf.Score)	21	21
53	102_1	Duo D-Dur Op.102/1 (2 Scores)	59	19
54	102_2	Duo e-moll Op.102/2 (2 Scores)	29	18
55	102_3	Duo A-Dur Op.102/3 (2 Scores)	16	18
56	103	Quartett e-moll Op.103 (Score & 4 Parts)	2	31
57	104	Durandarte and Belerma-Var.Op.104 (Solo & Pf.Score)	31	18
58	105	Tis The Last of Summer-Var. Op.105 (Solo & Pf.Score)	27	18
59	110_1	Duo Brillant B-Dur Op110/1 (Solo & Pf.Score)	6	19
60	110_2	Duo Brillant e-moll Op110/2 (Solo & Pf.Score)	56	21
61	110_3	Duo Brillant D-Dur Op.110-3 (Solo & Pf.Score)	37	22
62	119	Trio Concertant G-Dur Op.119 (Score & 2 Parts)	5	29

クーラウに関する著書

Other Publication: Books related to Kuhlau

Book name & Author	Price (EUR)
International Flöten-Wettbewerb "Friedrich Kuhlau" in Uelzen Hans Rudolf Mentasti	7
Der deutsch-dänische Komponist Friedrich Kuhlau Richard Müller-Dombois	14
Kuhlau-Handbuch für Flötisten Richard Müller-Dombois	24

シリンクス社の楽譜はIFKSで直接輸入をして皆様の便宜を図っています。流通の常識として国内では定価の約2倍、あるいはそれ以上の価格に設定されています。IFKSは輸入時の原価に送料を付加して販売をしていますので当然市価よりも安く入手できます。

IFKS ホームページから注文できます。

http://www.kuhlau.gr.jp/store/syrinx_ueke.html どうぞご利用ください。

『クーラウ・ピアノソナタ曲集 全4巻』

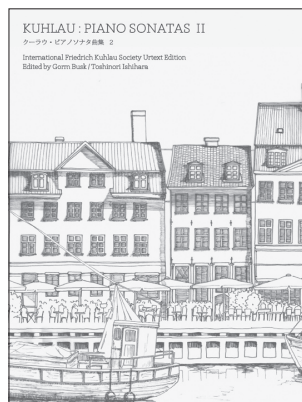


I

<収録作品>

Op. 6a-1, 6a-2, 6a-3, 4

菊倍判 / 128 ページ
定価：本体3,000円＋税
ISBN 978-4-88364-330-1

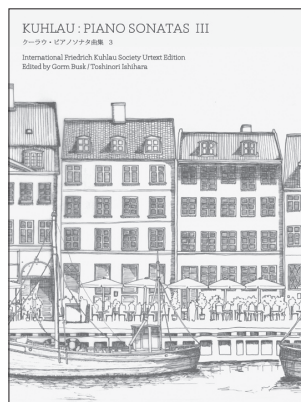


II

<収録作品>

Op. 5a, 6b Violino ad libitum, 8a, 127

菊倍判 / 124 ページ
定価：本体3,000円＋税
ISBN 978-4-88364-331-8

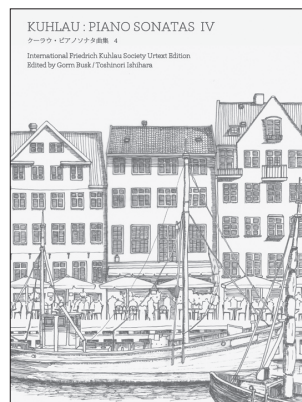


III

<収録作品>

Op. 26-1, 26-2, 26-3, 30

菊倍判 / 128 ページ
定価：本体3,000円＋税
ISBN 978-4-88364-332-5



IV

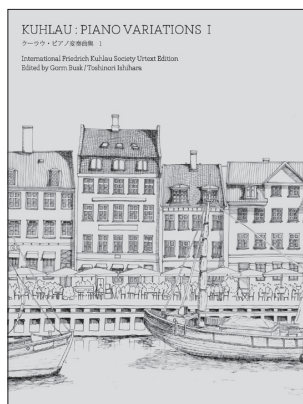
<収録作品>

Op. 34, 46-1, 46-2, 46-3, 52-1, 52-2, 52-3

菊倍判 / 136 ページ
定価：本体3,000円＋税
ISBN 978-4-88364-333-2

発行：インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会 発売：株式会社ハンナ お問い合わせ：株式会社ハンナ

『クーラウ・ピアノ変奏曲集 全3巻』

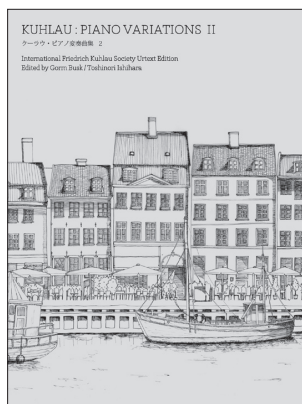


I

<収録作品>

DF 199, 196, Op. 12, 14, 15, 16, 18, 22, 25, 35, 42-1, 42-2, 42-3, 42-4, 42-5, 42-6

菊倍判 / 168 ページ
定価：本体2,500円＋税
ISBN 978-4-9907675-0-1

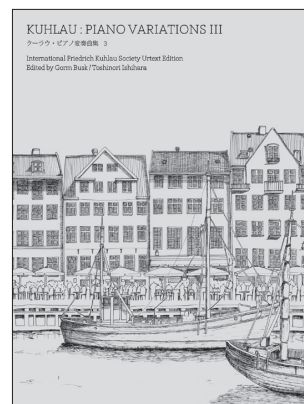


II

<収録作品>

Op. 48, 49-1, 49-2, 49-3, 49-4, 49-5, 49-6, 53-1, 53-2, 53-3, 54

菊倍判 / 172 ページ
定価：本体2,500円＋税
ISBN 978-4-9907675-1-8



III

<収録作品>

Op. 62-1, 62-2, 62-3, 91, 93, 112-1, 112-2, 112-3, 116-1, 116-2, 126

菊倍判 / 172 ページ
定価：本体2,500円＋税
ISBN 978-4-9907675-2-5

発行・発売：インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会 お問い合わせ：インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会

『クーラウ・ロンドとピアノ小品集 全3巻』



I

<収録作品>

DF 210 (6), Op.1, 2, 3, DF 211 (10), 218 (6), 220, 203, 205, 207, 202, 206a, 206b, 208 (2), 213, 212 (12), 209, Op. 31 (3), 37, 40 (6)

菊倍判 / 208ページ
定価：本体2,700円+税
ISBN 978-4-9907675-3-2



II

<収録作品>

Op.41 (8), DF 216, Op.56 (3), 61 (6), 73 (3), 84 (3), 92, 96

菊倍判 / 196ページ
定価：本体2,700円+税
ISBN 978-4-9907675-4-9



III

<収録作品>

Op.97 (2), 98b, 109 (3), 113 (3), 117 (3), 118 (3), 120, 121, DF 125, 214, 221

菊倍判 / 212ページ
定価：本体2,700円+税
ISBN 978-4-9907675-5-6

『クーラウ/ピアノ・ソナチネとやさしいソナタ曲集 5』



<収録作品>

Op.20(3), 55(6), 59(3), 60(3), 88(4)

菊倍判 / 180ページ
定価：本体2,500円+税
ISBN 978-4-9907675-6-3

2012年にソナタ曲集を出版した際に、ソナチネ及び小さなソナタは含めませんでした。この度はソナタ曲集で除外したそれらの作品をまとめて出版することにしました。これでIFKSはクーラウの2手用のピアノ作品を全て出版完結したことになります。

『クーラウ/ピアノ・ソナチネとやさしいソナタ曲集 5』にはOp.20(3曲)、55(6曲)、59(3曲)、60(3曲)、88(4曲)が含まれます。

クーラウのソナタとソナチネの分岐点は非常に曖昧です。クーラウのソナチネと言われるものはOp.20,55,88の3つの曲集です。この中でも、長さ、難易度、規模(楽章の数)は一律ではありません。クーラウのソナタは初期の作品の大規模なものから中期、後期にかけて小規模になっていきます。Op.20は小規模に移行する最初の作品です。

Op.55から教育的配慮が施されています。それは運指付きだからです。そして次の作品Op.59(やさしくて華麗なSonate)にはOp.55に続く作品と位置づけ、所々に運指が付けられています。その後続くOp.60(難しくないSonate)はOp.55とOp.59に続く作品と位置づけられていて、この3作品の統一感を意図しています。しかし、Op.60には運指は全く付けられていません。

本曲集はクーラウの運指付きということと初版を原典として編集していることに特色があります。1冊の中に上記の5作品がまとまっている楽譜も初めてのことで。

クーラウ 2手用のピアノ全作品出版完結

クーラウ/ピアノ・ソナタ曲集 1～4 (2012年)

クーラウ/ピアノ・変奏曲集 1～3 (2014年)

クーラウ/ロンドとピアノ小品集 1～3 (2016年)

クーラウ/ピアノ・ソナチネとやさしいソナタ曲集 5 (2018年)

フリードリヒ・クーラウ協会規約

◆第一章 協会の名称、目的、事業

第一条（協会の名称）

本協会の名称をインターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会（欧文名称 International Friedrich Kuhlau Society 略称 IFKS）と定める。

第二条（協会の目的）

本協会はデンマーク作曲家、フリードリヒ・ダニエル・ルドルフ・クーラウの音楽と生涯、クーラウを中心とする十九世紀前半、黄金時代のデンマーク及び北欧の諸文化を研究、紹介、普及することを目的とする。

第三条（協会の事業）

本協会は前条の目的を達成するために下記の事業を行う。

- 1) クーラウの作品と生涯、デンマーク及び北欧の諸文化に関する研究、紹介、普及
- 2) クーラウ及びその時代に関連する音楽家、作家等の作品の演奏、上演
- 3) 1, 2 項に関連する楽譜、著作、研究書等の収集、管理、閲覧
- 4) 1, 2 項に関連する楽譜、著作、研究書等の編集、執筆、制作、出版、販売
- 5) 1, 2 項に関連する音源等の収集、録音、編集、制作、販売
- 6) その他当協会の目的を遂行するために必要な諸事業

◆第二章 協会の運営、会員

第四条（協会の運営）

本協会是非営利の任意団体とし、次に定める会員によって運営する。

第五条（会員）

本協会は第二条の目的に賛同し、第三条の事業に参加または協力するために入会を希望する者を会員とする。

第六条（会費）

本協会の会員は年1回、細則に定める会費を納入する。

第七条（会員の特典）

本協会の会員は第三条に定める事業活動について次の特典を受けることができる。

- 1) 本協会の事業活動全般に関する報告
- 2) 本協会が主催、共催または協賛する研究会、講演会等の案内、招待または割引
- 3) 本協会が主催、共催または協賛する公演等の案内、招待または割引
- 4) 本協会が所有する楽譜、著作、研究書等の閲覧
- 5) 本協会が刊行する出版物等の割引購入
- 6) その他当協会諸事業への参加

第八条（特別会員）

本協会は第二条の目的に賛同し、第三条の事業に参加または協力する者を特別会員として推挙する。

第九条（特別会員の会費）

本協会の特別会員に対しては会費の納入を求めない。

第十条（特別会員の特典）

本協会の特別会員に関する特典については第七条の取り扱いに準ずるものとし、適用範囲は事業活動個々についてその都度定める。

第十一条（賛助会員）

本協会は第二条の目的に賛同し、一定の賛助金を拠出する法人または個人を賛助会員として推挙する。

第十二条（賛助会員の特典）

本協会の賛助会員に関する特典については第七条の取り扱いに準ずるものとし、賛助金額に応じた適用範囲を別に定める。

◆第三章 協会の役員

第十三条（協会の役員）

本協会は第二条の目的を遂行するために次の役員を置く。

- 1) 会長 1名
- 2) 理事長 1名
- 3) 理事 若干名
- 4) 監事 若干名

第十四条（協会の役員2）

第十三条に定めるほか、必要に応じ次の名誉役員を置くことがある。

- 1) 名誉理事長 1名
- 2) 顧問 若干名

第十五条（役員の仕事）

本協会の役員の仕事は次の通り定める。

- 1) 会長 対外的に本協会を代表し、業務の全般を総攬する。
- 2) 理事長 執行の最高責任者として業務を主宰し、総括、管理する。
- 3) 理事 業務の計画、執行全般を担当する。
- 4) 監事 業務運営、会計の公正を監視する。
- 5) 名誉役員 会長及び理事長の諮問に応じ、協会の業務全般に関して指導、助言を行う。

第十六条（理事会）

本協会の最高決定機関として理事会を置くものとし、理事長、理事をもって構成する。

二 必要に応じ第十四条に定める名誉役員の出席を求めることがある。

第十七条（理事会の仕事）

理事会は次の事項を審議、決定する。

- 1) 規約の改廃

- 2) 事業・予算計画
- 3) 会長、理事長、理事の選任推戴
- 4) 監事の選任
- 5) 名誉役員の推戴
- 6) 特別会員、賛助会員の推挙
- 7) その他本協会の事業執行に必要な事項

第十八条（理事会の召集）

理事会は理事長が必要と認めたとき召集する。

第十九条（理事会の審議・決議）

1) 理事会の決議は、出席者の過半数を持って決する。

2) 理事会の審議及び決議は必ずしも会議の形式をとらず、持ち回りまたは通信等の手段を通じて行うことがある。

第二十条（監事の理事会出席）

監事は理事長の要請により理事会に出席して意見を述べることができる。第二十一条（役員の任期）

役員の任期は四年と定め、重任を妨げない。

第二十一条（役員の任期）

役員の任期は四年と定め、重任を妨げない。

◆第四章 事務局

第二十二条（事務局）

本協会は理事会によって決定された諸業務を執行するため青山フルートインスティテュート内に事務局を置く。

東京都港区南青山2-18-5 エエリア南青山801

（付則）

この規約は平成11年9月19日より施行する。

この規約の改正規定は、平成13年6月1日から施行する。

◆賛助会員に関する細則

本細則は、当協会規約第十一条及び第十二条の規定にもとづき、当協会の事業に賛同する個人並びに法人の資格、会費、特典などに関する基準を定めるものである。

第一条 資格の取得

当協会会則第十一条に基づき、当協会の行う事業に、ご賛同、ご支援をいただける法人又は個人とし賛助会費の拠出方法によって、第一種会員または第二種会員として当協会に登録することによって資格を取得する。

第二条 賛助会費

第一種会員は法人10万円、個人10万円を毎年継続的に拠出するものとする。

第二種会員は法人10万円（100万円）以上、個人10万円（50万円）以上を登録時に一括して拠出するものとする。

第三条 特典

当協会の会報、その他の刊行物を進呈し、当協会主催の演奏会、研究会などにご招待する。その他、演奏会などのプログラムに賛助会員名の掲載をする。

第四条 資格の喪失

第一種会員については、賛助会費の納入がなされなくなったとき、

第二種会員については、賛助口数を年に換算した年数を経過したとき、当然に資格を喪失するものとする。

（付則）

この細則は平成13年6月1日から施行する。

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会役員

会長	ゴルトム・ブスク
名誉理事長	海老澤 敏
理事長	石原 利矩
理事	上野 京子
	内田 由美子
	小野 宏子
	岸 朋子
	河野 洋子
	塩入 加奈子
	高橋 由江
	山田 明子
	米山 典子
監事	成瀬 忠

会員番号	住所	氏名	99	長野県伊那市	松浦 美恵子	202	神奈川県川崎市	徳植 俊之	
1	会長	デンマーク、Virum	Gorm Busk	100	福岡市南区	鬼塚 美緒子	203	東京都立川市	鈴木 千代
2	名誉理事	西東京市	海老澤 敏	105	長野県安曇野市	池谷 智子	204	東京都八王子市	野原 千代
4	特別会員	デンマーク、Valby	Toke Lund Christiansen	106	東京都中野区	久保 千春	206	福岡県久留米市	山田 和治
5	特別会員	神奈川県藤沢市	新井 力夫	113	東京都国立市	塩入 加奈子	207	特別会員 東京都新宿区	今井 顕
6	特別会員	西東京市	酒井 秀明	114	北九州市八幡西区	藤永 優子	210	横浜市栄区	浦野 妙子
7	特別会員	神奈川県鎌倉市	播 博	116	滋賀県草津市	杉井 冴美	211	東京都港区	米嶋 光敏
8		宮崎県宮崎市	浅田 静	118	東京都品川区	武田 恵理	212	東京都港区	中村 和正
9	理事長	横浜市青葉区	石原 利矩	122	デンマーク、Hellerup	田代 あい	218	静岡県清水区	相川 知恵子
12	理事	東京都世田谷	上野 京子	123	福岡市東区	川崎 厚	219	静岡県駿河区	鈴木 友恵
13	理事	東京都文京区	内田 由美子	124	福岡市城南区	木本 佳子	220	静岡県富士市	杉沢 さくら
16	理事	東京都昭島市	河野 洋子	125	静岡県三島市	上野 深雪	222	静岡県葵区	滝沢 房子
21	理事	福岡県久留米市	山田 明子	126	静岡県葵区	山本 美和	223	静岡県浜松市	大月 弓子
22	理事	横浜市旭区	岸 朋子	127	横浜市青葉区	鈴木 伴枝	225	静岡県清水区	佐藤 幸代
23		東京都北区	福原 幸子	128	福岡県久留米市	三谷 典子	226	静岡県清水区	井草 厚子
24		大阪市住吉区	和田 高幸	129	アメリカ、Andover	八巻 絵里子	227	横浜市泉区	三木 恭子
25		北九州市八幡西区	安増 恵子	136	福岡市中央区	井上 佳恵	228	静岡県清水区	東谷 瑞枝
26		静岡県清水区	河合 文子	139	横浜市中区	神田 恵美子	229	静岡県清水区	川崎 あけみ
28		茨城県つくば市	平田 真由美	141	福岡市南区	清水 美保	232	静岡県清水区	宮本 敦代
33	理事	東京都国分寺市	米山 典子	142	横浜市南区	清水 沢子	233	静岡県藤枝市	神尾 友美
35	理事	東京都荒川区	高橋 由江	147	東京都立川市	内藤 友紀子	234	静岡県駿河区	村中 直
36		川崎市川崎区	栗山 麻理	148	茨城県守谷市	齋藤 淳子	236	静岡県清水区	杉山 弘子
40		静岡県清水区	飯田 菜穂子	153	群馬県館林市	滝沢 昌之	238	静岡県駿河区	松山 真穂
41		秋田県秋田市	高橋 雅博	155	東京都西多摩郡	梅田 晶子	240	東京都品川区	石塚 もと子
48		千葉県市原市	田頭 ゆかり	157	静岡県清水区	佐々木 経広	243	静岡県葵区	小澤 知子
51		茨城県つくばみらい市	佐藤 伸	158	福岡市中央区	岡 直美	249	静岡県葵区	多芸 仁子
55	監事	東京都港区	成瀬 忠	160	静岡県富士市	安間 秋津	250	静岡県清水区	片平 礼子
58		横浜市港北区	森 美智子	162	神奈川県伊勢原市	江崎 信子	251	東京都中野区	佐々木 親綱
59		横浜市緑区	内山 久枝	163	山梨県甲府市	清水 ルネ	252	東京都杉並区	木下 延英
63		神奈川県中郡大磯町	葛西 よう子	165	静岡県清水区	名和 市郎	257	神奈川県藤沢市	北村 健郎
65		横浜市西区	松井 治代	166	静岡県清水区	渡辺 武之	258	横浜市南区	久慈 弥重子
66		静岡県清水区	牧田 洋子	167	静岡県湖西市	伴 奈保美	260	特別会員 東京都葛飾区	大河原 晶子
69		横浜市中区	俵山 紗織	169	静岡県清水区	岡村 美香	261	埼玉県狭山市	植竹 里奈
72		静岡県清水区	犬塚 十糸子	170	静岡県清水区	山田 昌恵	263	東京都品川区	加藤 万貴
73		静岡県清水区	小沢 節子	172	静岡県清水区	瀧 大輔	267	静岡県島田市	桜井 綾乃
74		東京都世田谷	北村 章子	177	福岡県春日市	藤田 佳子	268	東京都練馬区	芳賀 正和
75		静岡県清水区	岩崎 真澄	180	静岡県磐田市	亀田 守	269	横浜市泉区	高浜 美音
76		静岡県清水区	畔柳 千枝子	183	西東京市	伊吹 このみ	272	川崎市幸区	坂井 直子
77		長野県伊那市	鮎沢 理恵	184	東京都世田谷区	澤畑 恵美	275	東京都台東区	鈴木 淳彦
81		東京都八王子市	岡部 貴美子	186	静岡県藤枝市	青島 悦	276	神奈川県茅ヶ崎市	今城 明美
82		長野県駒ヶ根市	亀田 晶子	187	特別会員 神奈川県川崎市	福井 信子	283	兵庫県伊丹市	西川 一也
83		神奈川県平塚市	杉嶋 しな子	189	東京都武蔵野市	田宮 治雄	290	横浜市青葉区	伊藤 敬子
84		千葉県我孫子市	高村 玲子	191	東京都荒川区	亀沢 広嗣	292	東京都新宿区	十川 稔
89		東京都渋谷区	岩並 秀一	195	東京都中野区	山本 公男	298	福岡市城南区	分山 邦子
90		福岡県福岡市	高倉 直子	196	福岡市早良区	藤井 悦子	300	福岡市中央区	古川 文信
91		香川県坂出市	二見 仁康	197	理事 埼玉県川口市	小野 宏子	305	神奈川県小田原市	小澤 達彦
92		静岡県清水区	山下 あやの	198	茨城県結城市	天野 雅之	306	秋田県秋田市	武藤 芳
94		宮崎県宮崎市	桐原 直子	199	佐賀県杵島郡	川崎 雅子	308	神奈川県横浜市	坂本 園子
96		新潟県柏崎市	近藤 千明	200	東京都中野区	畔柳 香里	311	横浜市磯子区	成勢 裕基
98		福岡市東区	布巻 ちひろ	201	東京都国分寺市	柴田 菊子	312	千葉県八千代市	工藤 一彦

316	ドイツ、ニュルンベルク	齋藤 宏愛	375	デンマーク、シュェダルス	Thomas Jensen	438	東京都国分寺	辻 昌夫
318	川崎市多摩区	鷲宮 美幸	376	デンマーク、リュンビュー	Peter Vinding Madsen	439	静岡市清水区	田中 準
319	大阪市天王寺区	石井 志保	377	兵庫県芦屋市	北山 葉子	441	Marseille, France	Mina Ghobrial
323	兵庫県神戸市	瓦田 成美	378	神奈川県相模原市	井清 真弓	448	東京都渋谷区	Freddy Svane
324	大阪府池田市	竹内 (山元) 登紀子	380	東京都杉並区	加藤 協子	449	静岡県伊東市	梅原 圭
325	兵庫県伊丹市	谷原 いづみ	381	千葉県船橋市	城谷 千保	451	東京都杉並区	東條 茂子
326	福岡県久留米	深町 夏海	382	スウェーデン、マルメ	Henrik Svitzer	452	奈良県奈良市	浅川 晶子
329	静岡市清水区	勝沢 朝子	383	USA、コロラド	Curtis Pavey	453	東京都中野区	實方 康介
330	東京都新宿区	中田 美穂	384	デンマーク、Kerteminde	Rune Most	454	British Hong Kong	Chi Yan AU
335	福岡県小郡市	阿部 祥子	385	スイス、ベルン	Hans Peter Friedli	455	Germany	Birte Ebermann
337 特別会員	デンマーク、ヒナロップ	Jørgen Poul Erichsen	386	福岡県久留米市	村岡 千華	456	静岡市葵区	小澤 実々子
338	神奈川県横浜市	武藤 ヒロ子	391	千葉県市川市	鷹野 雅史	457	静岡市清水区	木村 七重
339	神奈川県横浜市	荻原 郁子	393	ベルギー、Brussels	Anne Pustlauk	458	USA、ピオリア	Kyle Dzapo
344	静岡市駿河区	小倉 尚美	394	東京都中野区	杉本 凌士	461	USA、オクラホマ	Lauren Rae Monteiro
345	静岡市葵区	今林 歩	397	東京都中野区	坪内 守	462	東京都日野市	山口 陽二
346	静岡県牧ノ原市	大橋 利奈子	398	イタリア	Ginevra Petrucci	463	Dutch	Eric Roefs
350	ドイツ、ユルツェン	Ute Lange-Brachmann	399	神奈川県横浜市	浅野 麻耶	464	京都市左京区	津村 和泉
351	ドイツ、ユルツェン	Eckhard Lange	400	東京都立川市	国立音楽大学付属図書館	465	Canadian	Paul Hutchinsons
352	ドイツ、バーデンバーデン	Astrid Sperling-Theis	401	イタリア	Gian-Luca Petrucci	466	静岡市清水区	佐藤 紗規子
356	群馬県高崎市	垂野 鮎子	403	スイス	Peter-Lukas Graf	467	千葉県習志野市	池田 知行
357	静岡市葵区	渡辺 美代子	404	英国	Trevor Wye	468	静岡市駿河区	後藤 友香理
359	ドイツ、バンベルク	Gunther Pohl	405	横浜市戸塚区	久慈 美沙	469	富山県富山市	熊谷 永子
361	神奈川県茅ヶ崎市	下村 史代	406	ポーランド	Elzbieta Gajewska	470	岡山県岡山市	川口 晴子
367	神奈川県横浜市	田中 豊	408	ドイツ	Philipp Jundt			
368	神奈川県中郡二宮町	伊東 義曜	411	岡山県岡山市	立石 佳那			
371	横浜市青葉区	佐保田 理恵	414	東京都小平市	柴田 翔平			
372	横浜市栄区	大澤 明子	415	イタリア	Maurizio Bignardelli			
373	ドイツ、ミュンヘン	András Adorján	422	東京都八王子市	幸淵 裕美子			
374	フランス、ヴァンセーヌ	Denis Verroust	427	東京都青梅市	齋藤 亜都沙			

名誉会員 Dan Fog (2000.8.31 逝去)
特別会員 Richard Müller=Dombois (2021.12.8 逝去)

● IFKS ホームページは年 1 回の会報の情報では追いつかないこともあり、大切なニュースを掲載しています。フォーラム (掲示板) は会員の方が自由に書き込める場所としてアップしています。初めは迷惑な書き込みは殆どなかったのですが、だんだん被害が増えてきて最後には「いたずら書き込み」「消す」「いたずら書き込み」「消す」の応酬となり管理人にとっては悪夢となりました。その後、フォーラムにパスワードを設定してから訪れる人が少なくなりました。どうぞ、皆様の投稿をお待ちしています。ID とパスワードは以下のようになっています。

USER ID : kuhlau PASSWORD : 911

♪ E メールアドレスをお持ちの方、メールでアドレスをお知らせ下さい。

ホームページ : <http://www.kuhlau.gr.jp> E メール : ifks@kuhlau.gr.jp

編集後記

2024 年は能登半島地震に始まり、多くの自然災害や事故などに胸を痛める 1 年となりました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

この度、紙面による会報としては最終号をお届けすることとなりました。長きにわたり原稿をお寄せいただき、また、会報作成にご協力いただいた皆様、そしてお読み下さった全ての会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

紙面による会報という形でのお知らせは本号で終わりますが、今後は、web 等を活用してよりタイムリーに皆様と情報を共有し、引き続きクーラウ研究、その音楽の普及のために努力して参りたいと考えております。活動を継続する中で、皆様にもまたお目に掛かる機会がありますことを願っております。

最後になりますが、これまでのご支援に改めて感謝申し上げ、今後ともクーラウ協会をよろしくお願い申し上げます。 (H.O.)

IFKS 会報第 25 号

International Friedrich Kuhlau Society

Aerie Minami-Aoyama 801, Minami-Aoyama 2-18-5 Minato-ku Tokyo 107-0062, Japan

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会 2024.10.6 発行

〒107-0062 東京都港区南青山 2-18-5 アエリア南青山 801

TEL 03-5770-5220 FAX 03-5770-5221

URL: <http://www.kuhlau.gr.jp/>

E-Mail : ifks@kuhlau.gr.jp

Oct.6, 2024 Printed in Japan